



「超短期留学プログラムの意義と成果の検証」

～全学留学プログラムGlobal Fieldwork Project参加学生からみえた傾向～

立命館大学 教授・国際部副部長 山中 司

(株)ベネッセアイキャリア 教育事業本部 小田桐 一弘



留学プログラムについて

スーパーグローバル大学創成支援(SGU)において、立命館大学は「グローバル・アジア・コミュニティに貢献する多文化協働人材の育成」を事業目標として位置づけ、2023年度には年間 3,200名の海外派遣を実現することをめざしている。

立命館大学国際部・国際教育推進機構は、国際教育センター会議のもと 2018年9月に「留学効果検証ワーキング」を設置。

01 立命館大学の海外留学プログラム

立命館大学の海外留学プログラムに参加して留学する場合、学籍上「留学」または「在学」という扱いとなり、4年間で卒業が可能です。ただし、留学年次、留学時期、各自の単位取得状況によっては4年間で卒業できない場合もあります。

全学募集プログラム P.6	全学部の学生を対象に実施されるプログラム。 所属学部・回生等により、参加条件が限定されている場合があります。
学部・教学機関のプログラム P.7~8	各学部・教学機関が主催するプログラム。 所属学部・学科・専攻コース・回生等により、参加条件が限定されている場合があります。



※上記以外で、休学制度を利用して個人手配により留学する場合、留学期間は在学期間に算入されませんので4年間で卒業はできません。また、休学中に取得した単位の認定を本学に願い出することもできません。ただし、個人が自ら選択・出願し、先方大学から入学が許可され、本人による事前申請に基づいて本学が留学と認定した場合（個別合意に基づく留学）は、この限りではありません。詳細は所属学部事務局（OICは学びステーション）で確認してください。

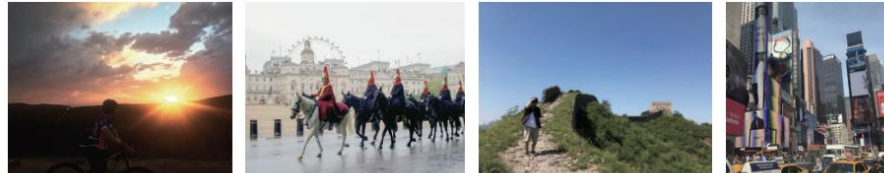
02 全学募集プログラムの種類と構造

自分に適した海外留学プログラムを探し、単なる語学力の向上にとどまらない留学プランを作成してください。

立命館大学の留学プログラムのレベルと主な内容

立命館大学では留学プログラムの目的に応じて3つのレベルを設定しています（ただし、各学部・教学機関によるプログラムなど、この分類に該当しないものもあります）。

レベル	プログラムの目的	留学のタイプ
イニシエーション型（初級）	語学力の向上と異文化体験を主要な目的としたプログラム	海外経験がない人や、語学レベルが初級者向けの異文化体験・語学修得を中心とした短期研修。
モチベーション向上型（中級）	語学力を高めながら外国語による講義を受けるプログラム	特定のテーマ設定による講義やフィールドワークなど。期間も短期から中長期まで幅広い。語学研修や正規開講科目を受講できるものもあり、中級以上の語学力が求められる。
アドバンス型（上級）	正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで、自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラム	現地の正規学生と同様に、正規開講科目を受講し単位を取得する。単位を取得するだけでなく、卒業資格を得るものもある。高度な語学力・学力が求められる。

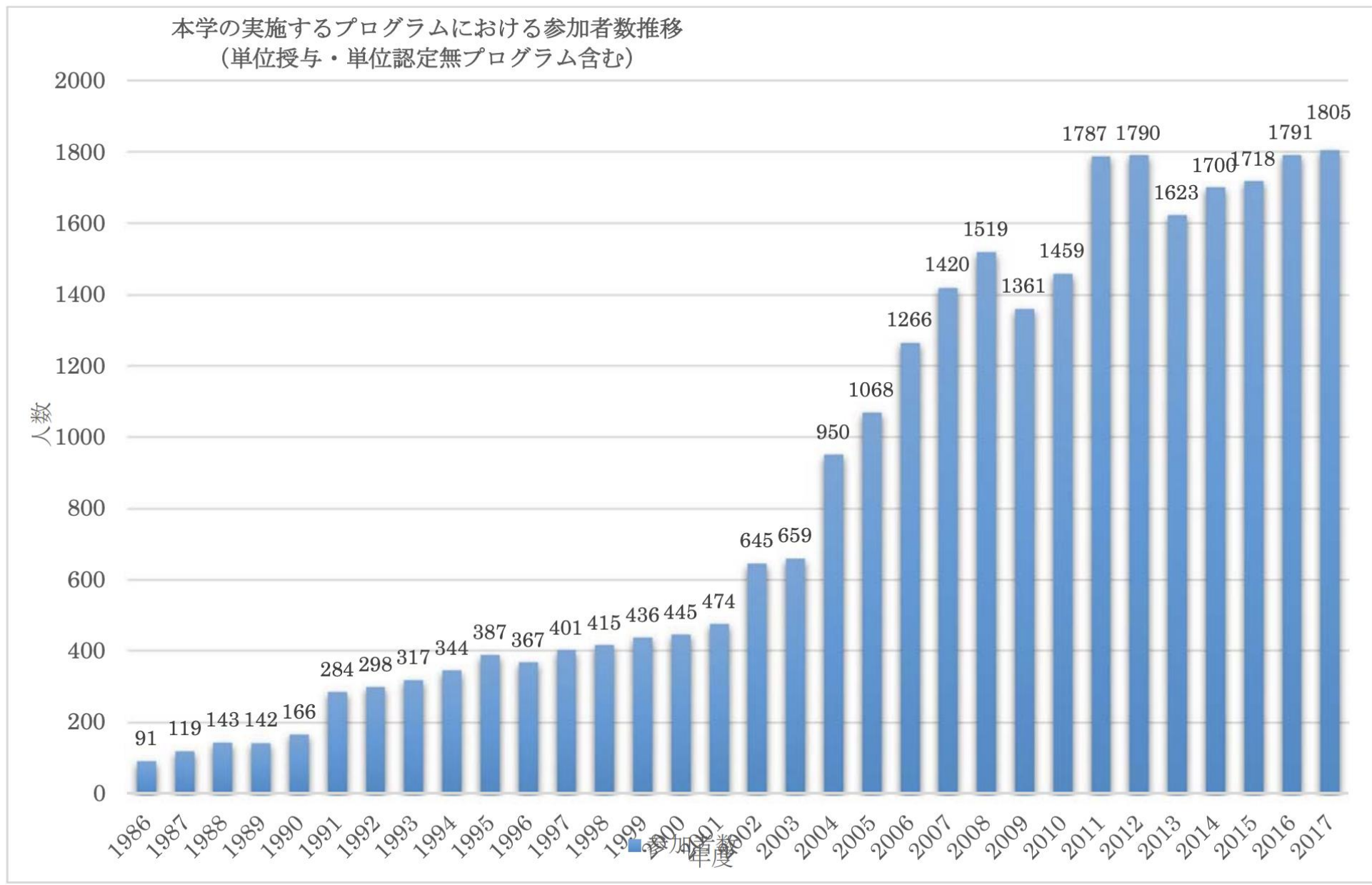


03 全学募集の留学プログラム

2019年3月現在

レベル	プログラム名	期間	プログラム紹介	
イニシエーション型（初級）	Global Fieldwork Project	夏期休暇中	1週間	
	ホーチミン市人文社会科学大学 NEW ハノイ貿易大学 マレーシア科学大学 バンニヤサ大学 NEW チュラロンコン大学			
	立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」プログラム	夏期休暇中	4週間	
	サイモンフレーザー大学 NEW クイーンズ大学 ノッティンガム大学 ニー・アン・ポリテクニク 国立台湾師範大学 イリノイカレッジ オクラホマ大学 ボストン大学 ニューヨーク大学 オカナガンカレッジ NEW トロント大学 ウォーリック大学 メルボルン大学 ヴィクトリア大学ウェリントン 北京大学 高麗大学 トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校 ライブツィヒ大学 アルカラ大学 モンテレイ工科大学	夏期休暇中	4週間	
	異文化理解セミナー	春期休暇中		
	モチベーション向上型（中級）	海外スタディ	夏期休暇中	2週間
		ベース大学「ニューヨークで学ぶ国際連合」 NEW マレーシア工科大学「マレーシアで学ぶアジアの環境と開発」 ラトガーズ大学「多様な視点から見るアジア太平洋の国際関係」	夏期休暇中	4週間
		Asian Community Leadership Seminar「日本・韓国・台湾で学ぶ「アジア・平和・未来」」	夏期休暇中	約3週間（立命1週間+派遣約2週間）
		立命館・マコーリー大学「日豪関係」プログラム	夏期休暇中	7週間
		立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム	夏期出発	1セメスター（4ヶ月間）
		立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティビティ」プログラム	夏期出発	1セメスター（4ヶ月間）
		立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム	春期出発	1セメスター（4ヶ月間）
		立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム	夏期出発	1セメスター（6ヶ月間）
		立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム	夏期出発	1学年間
		立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム	夏期出発	1学年間
	アドバンス型（上級）	ASEANで学ぶ国際PBLプログラム	夏期出発	1セメスター
		交換留学	夏期出発	1学年間 （一部協定校のみ1セメスター可）
		学部共同単位プログラム（DUOP）（2回生派遣）※	夏期出発	基本2学年間（2回生の8月〜）
		アメリカン大学（AU） サフォーク大学（SU）	夏期出発	

※上記の留学プログラム参加にあたって異学金が支給されます。異学金の詳細は、P.53~54を参照してください。
 ※上記留学プログラムへの参加を希望する正規の外国人留学生の方は、各プログラムの募集要項で応募条件などの詳細を確認してください。
 ※上記プログラムは変更になる可能性があります。必ず募集要項で詳細を確認してください。
 ※1回生時からのDUOP派遣を希望する場合は、立命館大学への入学前に「DUOP入学前募集（1回生からの派遣者）」に応募し、合格する必要があります（プログラム募集要項・応募書式は2019年11月頃に海外留学プログラムホームページにて案内予定）。



https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_s/2018/index.html

独立行政法人
日本学生支援機構
JASSO Japan Student Services Organization

文字の大きさ 標準 大 検索ワードを入力

ホーム 奨学金 留学生支援

ホーム > JASSOについて > 学生支援に関する各種調査 > 協定等に基づく日本人学生留学状況調査 > 平成29年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果

独立行政法人

5.日本人学生派遣数の多い大学

学校名	国公私	派遣数(人)
立命館大学	私立	1,543
関西外国語大学	私立	1,525
早稲田大学	私立	1,478
関西学院大学	私立	1,449
芝浦工業大学	私立	1,025
東京大学	国立	1,021
立教大学	私立	922
同志社大学	私立	883
城西国際大学	私立	858
明治大学	私立	852

- SGU政策における「送り出し目標」の設定 → 派遣学生数を2倍に
- 「グローバル」についての議論の不足 (グローバル ≠ English)
- 「寝た子を起こす」政策の必要性 (「留学に行きたい学生は既に行っている」)
 - i. 2017年度海外派遣学生数は約1,800名 ← SGU目標 3,200名
 - ii. 学生数の全体から見るとわずか1割程度 - 9割以上の学生がそのまま卒業
- 新規留学科目「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」の立ち上げ
 - i. 英語力不問、1週間の超短期、廉価 + 奨学金あり、教員引率あり、バディあり
 - ii. 想像を超える好反応 (初年度定員60名のところ145名の応募、最多は理工学部)
 - iii. 反対教員の懸念を払拭 (高いモチベーションと取組の態度、英語での実施)

応募先着順!

超!短期留学 5日間で! 自分を変えよう!

— 体験型海外留学入門プログラム —
GLOBAL FIELDWORK PROJECT

世界に TOUCH!

in HO CHI MINH CITY VIETNAM

ホーチミン市人文社会科学大学

5 days Report

Day 1 **まずはバディとの顔合わせ!**

初日は、オリエンテーションからスタート。5日間のプログラムをともに過ごしてくれるバディとの顔合わせをし、フィールドワークの計画について話し合います。

バディとは?
1グループに1名、現地の学生がつかます。5日間もに行動し、異文化交流や英語でのコミュニケーションを図るほか、さまざまな面でサポートしてくれる学生です。

Day 2 **ベトナム・ホーチミンの歴史を知る!**

ホーチミンのクチ・トンネル(ホーチミン北部)に参加者全員で訪れ、ベトナム戦争時代の歴史を学びます。

Day 3 **ベトナムの日系企業を訪ねよう!**

午前は、現地の日系企業を訪ね、ベトナムで活躍している日本人から企業説明や世界で働くことについて話を聞きます。午後は、本格的にフィールドワークを開始!各グループ+バディで自由に行動します。

Day 4 **ホーチミン市街でフィールドワーク!**

終日フィールドワークを行います。ホーチミン市街のどのような場所に行き、どのような調査活動を行うかはグループの計画次第!

テーマ例

- ベトナムで最も人気のグルメについて
- ホーチミンにおける「観光」について
- ベトナムの英語教育と経済成長について など

Day 5 **これまでの成果を発表!**

最終日は、現地大学の教職員やバディに対して、活動成果を報告し5日間を振り返ります。

現地大学の教員からベトナム・ホーチミンの文化・経済を理解するための入門講義も受けました!

当時、「鉄の三角地帯」と呼ばれ露城不慮といわれたクチ・トンネルを訪問!

人気のテーマはグルメ。食文化と国民生活について考えました。

バディとのFarewell Party. あっという間の5日間でした!

Level up!!

効果検証について

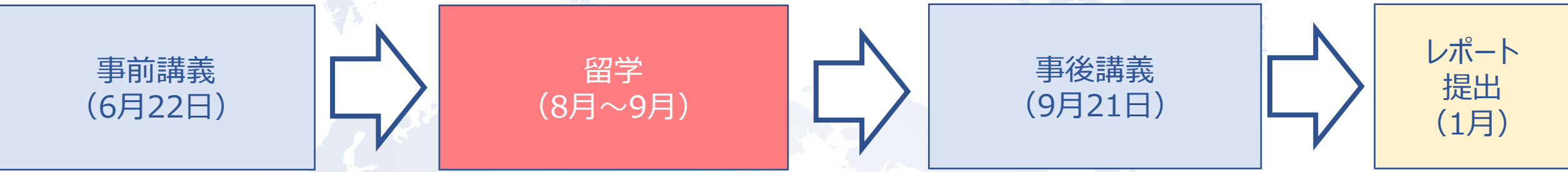
- R2020後半期重点政策推進予算(学部高度化)を用いた留学効果検証プロジェクト
「立命館グローバルX（エックス）」プロジェクト: 超短期留学科目「グローバルフィールドワークプロジェクト」の加速度的拡大と全学留学評価メソッドのモデル実装」(2018～2020年度、事業経費7,480千円)
- 超短期留学の効果に関する客観的評価・分析ツールとしてGPS-Academicを導入。
理由: ①思考力・姿勢態度・経験・学生意識調査の4観点で多面的・多角的に測定・把握可能
②フイージビリティ、③キャリアの視点、④(留学外の)学部教学との連動

・目的

Global Fieldwork Project（短期留学）の価値を客観的に示す
→エビデンスに基づいて次年度以降のプログラム改善に活かす
→アセスメント結果から学生の気づき・振り返りを最大化し成長を促進

・分析データ

- ①GPS-Academic留学前受検データ
 - ②GPS-Academic留学後受検データ
 - ③留学後振り返りアンケート
- 上記①、②、③を受検、回答した155名を分析
※本留学プログラム参加者は165名



目的・趣旨説明
目標設定
アセスメント結果説明

語学力 + α
行動する力
考える力 (思考力)
やり抜く力など

事後振り返り (言語化)
帰国後の目標設定
アセスメント結果説明

実践の振り返り



GPS-Academicについて

GPS-Academicで測定・評価できる力

答えが一つではない問いに対して
問題を解決する力

問題解決の質と深さを左右する

思考力

批判的
思考力

協働的
思考力

創造的
思考力

問題解決に向かう

姿勢・態度

レジリ
エンス

リーダー
シップ

コラボ
レーション

問題解決の力を磨くための

経験

自己
管理

対人
関係

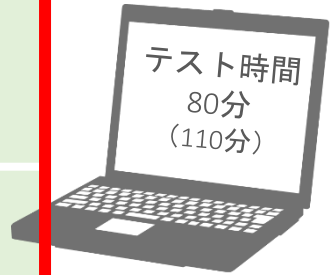
計画・
実行

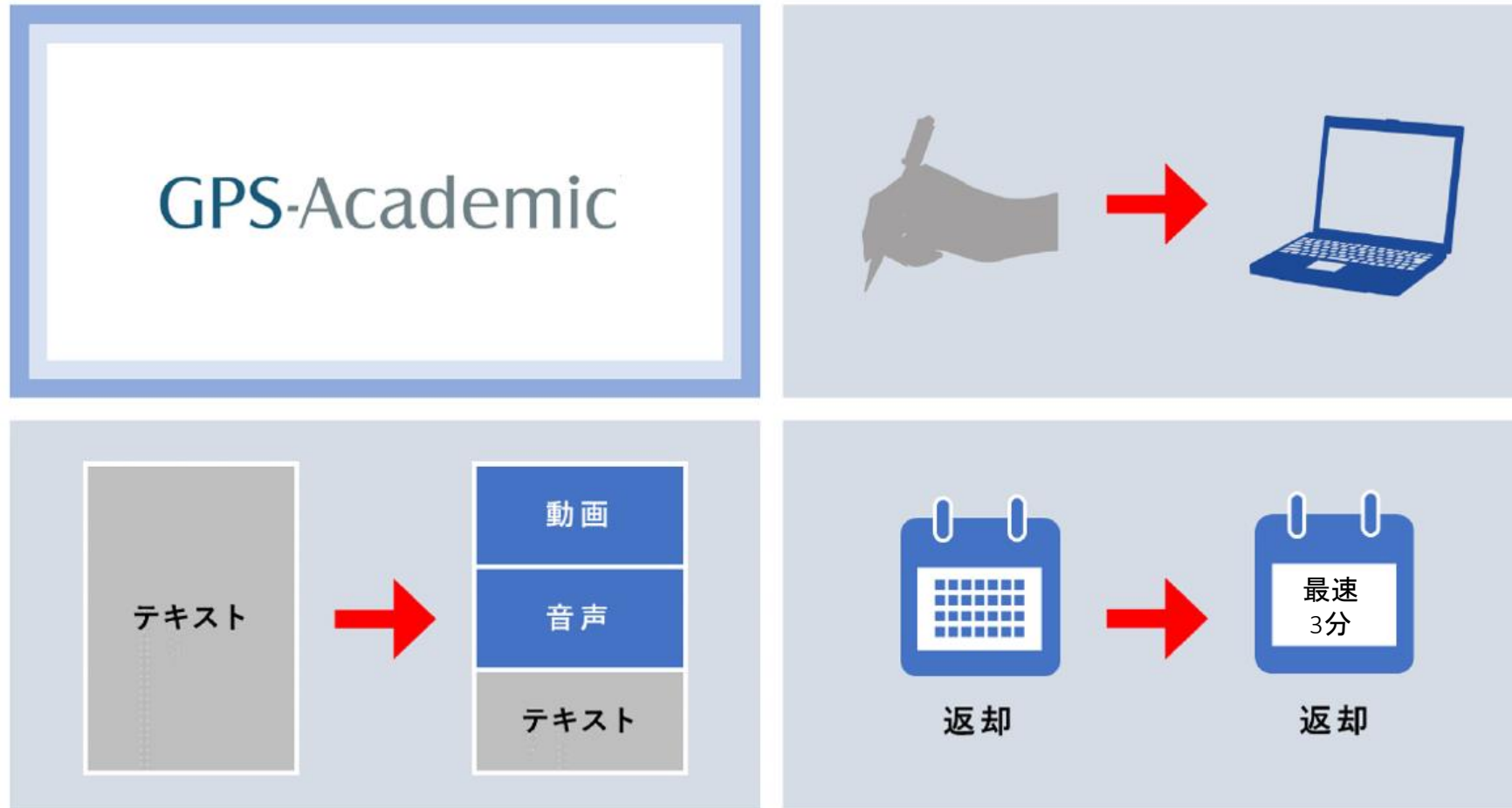
※「学生意識調査」のアンケートもあわせてご受検いただけます

CBT (Computer Based Testing)

チームで問題を解決するために必要な思考力・態度・経験

			選択肢	記述・論述
思考力	批判的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を抽出し吟味する ・論理的に組み立てて表現する★ 	45分	30分 ★オプション
	協働的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との共通点・違いを理解する ・社会に参画し人と関わる★ 		
	創造的思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を関連づける ・問題をみいだし解決策を生み出す★ 		
態度	レジリエンス	<ul style="list-style-type: none"> ・感情の制御 ・立ち直りの速さ ・状況に応じ冷静に対応する力 	10分	
	リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら先頭に立って進める力 ・未知の物に挑戦する力 ・粘り強くやり抜く力 		
	コラボレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立とうとする姿勢 ・他者と関わろうとする積極性 		
経験	自己管理	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦する経験 ・続ける経験 ・ストレスに対処する経験 	5分	
	対人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を受容する経験 ・関係性を築く経験 ・議論する経験 		
	計画・実行	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定する経験 ・解決策を立案する経験 ・実行・検証する経験 		
アンケート	学生意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・【新入生版】 大学納得度・志望度、教育力認識、大学観 など ・【在校生版】 適応状況、大学納得度・満足度、カリキュラム評価、退学検討、イメージ変化、授業役立ち度、など 	20分	





1. 実施負荷軽減→監督者・結果返却の負荷を軽減できます
2. 結果返却の早期化→結果が受検後すぐに確認ができることで、早期にアクションを起こせます
3. 音声・動画問題の出題→CBTによって実際の場面を想定した出題が可能

GPS-Academicで測定・評価できる力

答えが一つではない問いに対して
問題を解決する力

問題解決の質と深さを左右する
思考力

- 批判的
思考力
- 協働的
思考力
- 創造的
思考力

問題解決に向かう
姿勢・態度

- レジリ
エンス
- リーダー
シップ
- コラボ
レーション

問題解決の力を磨くための
経験

- 自己
管理
- 対人
関係
- 計画・
実行

※「学生意識調査」のアンケートもあわせてご受検いただけます

批判的 思考力



「なぜ？」「本当？」から始める思考力

「批判」とは、他人を批難することではなく、他人にも自分にもあるよい点・悪い点を論理的に考えて、同じように指摘すること。必要な情報が何かを見極め、筋道の通った考察・説明ができる力。

協働的 思考力



「相手」と「自分」の理解から始める思考力

世の中には、多様な文化や価値観が存在する。よりよい解決策を生み出すために、相手を尊重し、共通点や違いを認め合いながら、自分の考えも伝えつつ、積極的に他者と関わるための力。

創造的 思考力



「AをBにしてみると？」から始める思考力

実社会や実生活で起こる問題は、必ずしもすぐに解決できるものばかりではない。別の切り口からアプローチしたり、別の問題の解決方法を応用してアイデアを生み出したりして、解決する力。

■見えているモノだけで判断せず、物事を構造的にとらえられるか？

出題観点の例

- 「相関関係」があるからといって「因果関係」があるとは限らないことに気づくことができるかどうか
- 情報を抽出・吟味したり、自分の主張を論理的に伝えたりする上で、「文章の構造を捉える」ことができているかどうか
- 他者と協働して問題解決をする際には、相手の言動を理性的に解釈し、「つまりどういうことを主張しているのか」を読み取る必要がある。全体の文脈(少なくとも、その発言の前後)から捉えることができるかどうか
- 問題の解決策は完全なオリジナルである必要はない。一つの解決策を同じ構造をもつ別の問題に適用(転移)できるかどうか

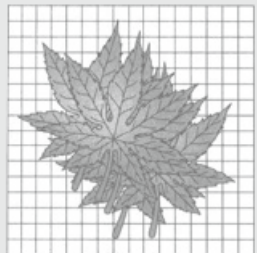
批判的思考力：情報を解釈・分析・評価する

問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

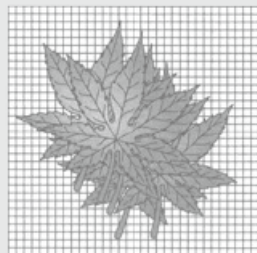
川の水質を調べる指標として落葉の分解を使うことがある。

水質が良い⇒昆虫類や甲殻類などが食べることで分解される
 水質が悪い⇒細菌類（バクテリア）などが食べることで分解される

図のように目の粗さの異なる袋①，②にそれぞれ落葉を入れて川底に沈めておくと、川の水質によって①，②の分解はどのようになると考えられるか。



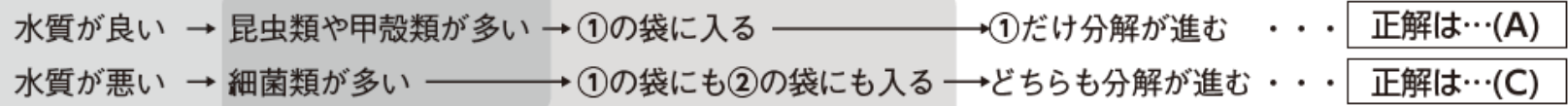
①目の粗い袋
(目の間隔 10mm)

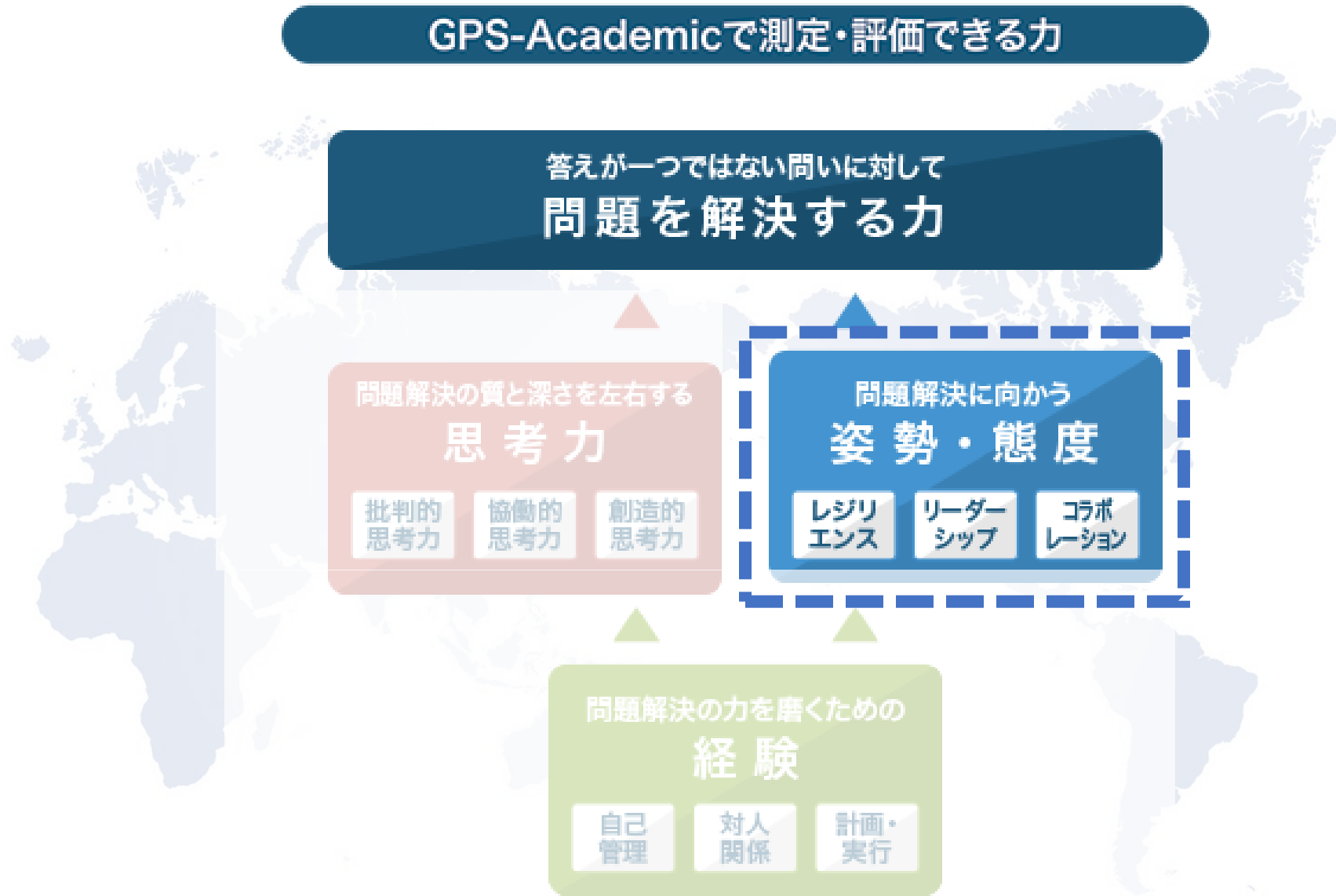


②目の細かい袋
(目の間隔 0.5mm)

水質が良い場合，悪い場合のそれぞれについて，最も適当なものを，次の(A)～(D)のうちから一つ選び，記号で答えよ。

- (A) ①の分解は進むが，②の分解は進まない。
- (B) ②の分解は進むが，①の分解は進まない。
- (C) ①，②のどちらも分解が進む。
- (D) ①，②のどちらも分解が進まない。





※「学生意識調査」のアンケートもあわせてご受検いただけます

姿勢・態度	レジリエンス	コラボレーション	リーダーシップ
	<ul style="list-style-type: none"> 感情の制御 立ち直りの速さ 状況に応じ冷静に対応する力 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立とうとする姿勢 他者と関わろうとする積極性 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら先頭に立って進める力 未知の物に挑戦する力 粘り強くやり抜く力

「姿勢・態度」は、3つの選択肢から「最もよく当てはまるもの」と「最も当てはまらないもの」を1つずつ選ぶという設問形式をとっています。すべての設問に答えることで、姿勢・態度の各項目における前向きさの度合いを診断しています。

Q

以下のA～Cから、あなたに最もよく当てはまるものと、最も当てはまらないものをそれぞれ1つずつ選んでください。

- A. 自分から先に立って物事を始める。
- B. 目標は常に高いところに置く。
- C. 頭の切り替えが早い。

GPS-Academicで測定・評価できる力

答えが一つではない問いに対して
問題を解決する力

問題解決の質と深さを左右する

思考力

批判的
思考力

協働的
思考力

創造的
思考力

問題解決に向かう

姿勢・態度

レジリ
エンス

リーダー
シップ

コラボ
レーション

問題解決の力を磨くための

経験

自己
管理

対人
関係

計画・
実行

※「学生意識調査」のアンケートもあわせてご受検いただけます

問題解決の力を磨くための
経験

自己管理 対人関係 計画・実行

挑戦する経験	難しいと思えることでも挑戦した
続ける経験	自分の目標は達成するまであきらめずやり遂げた
ストレスに対処する経験	ストレスを感じたとき、その問題と向き合い克服した
多様性を受容する経験	自分の価値観で良し悪しを決めつけず、相手の立場や体験を尊重し付き合った
関係性を築く経験	チーム内でトラブルが起こったとき、自ら働きかけて問題を解決した
議論する経験	議論(話し合い)の場では何が課題で何を解決すべきかを明らかにするようにした
課題を設定する経験	良い評価(成績)が得られなかったとき、なぜその評価になったのかを考えた
解決策を立案する経験	チーム活動などで計画を考える際、どのくらい効果的か予測しながら決めた
実行・検証する経験	試験の結果が出たとき、結果の良し悪しだけでなく、どうすればさらに良くなるかを考えた

GPS-Academicで測定・評価できる力

答えが一つではない問いに対して
問題を解決する力

問題解決の質と深さを左右する

思考力

批判的
思考力

協働的
思考力

創造的
思考力

問題解決に向かう

姿勢・態度

レジリ
エンス

リーダー
シップ

コラボ
レーション

問題解決の力を磨くための

経験

自己
管理

対人
関係

計画・
実行

※「学生意識調査」のアンケートもあわせてご受検いただけます

学生意識調査 アンケート項目例	
新入生版	在校生版
大学・学問への魅力	入学後のイメージ変化
大学選択の情報源	成長実感
授業内容への理解度	学部学科のお勧め度
履修選択の考え方	大学教育・学生生活への満足度
学習への取り組み方	教育施設の利用度
力を入れたいこと	授業の役立ち度
大学・学部学科への志望度	授業・カリキュラム評価
学生生活への不安	学びへの取り組み
職業・進路への心構え	大学納得度
	大学適応状況
	進路への準備状況
大学独自設問設定 15問	大学独自設問設定 15問
合計 63問	合計 91問

GPS-Academic 個人結果レポート
Global Proficiency Skills program

あなたの現時点での問題解決の力を、「思考力」「姿勢・態度」「経験」の3つの観点で評価しています。結果を確認し、今後、大学でどう学んでいくべきかを考える際の指針としてみてください。

思考力 大学生での思考力の捉え方、個人結果レポートの見方など「お役立ち動画」はこちら

問題解決に向けた前向きさを把握

問題解決に必要な思考力		問題解決に必要な姿勢・態度	
思考力総合評価	思考力総合スコア	レジリエンス (精神的なタフさ)	リーダーシップ (物事に向かう前向きさ)
C	44	B	D
批判的思考力	B	レジリエンス	B
協働的思考力	B	リーダーシップ	D
創造的思考力	B	コラボレーション (他者への働きかけ)	D

自己管理 B
対人関係 B
計画・実行 B

【詳細結果】

思考力

問題解決に必要な3つの思考力について、テストの結果と自己評価を5段階で示しています。自分がどの段階かを確認し、テストの結果と自己評価のギャップを意識しながら、振り返りましょう。

批判的思考力 Critical Thinking 情報を抽出し吟味する力	協働的思考力 Collaborative Thinking 他者との共通点・違いを理解する力	創造的思考力 Creative Thinking 新しいアイデアを生み出す力
<p>テスト結果 (到達度)</p> <p>自己評価 (5段階)</p> <p>到達度: S</p> <p>自己評価: 5</p>	<p>テスト結果 (到達度)</p> <p>自己評価 (5段階)</p> <p>到達度: A</p> <p>自己評価: 4</p>	<p>テスト結果 (到達度)</p> <p>自己評価 (5段階)</p> <p>到達度: B</p> <p>自己評価: 3</p>

自己評価とのギャップの確認が可能

具体的なアドバイスあり

思考力の到達度の把握

GPS-Academic 個人結果レポート

姿勢・態度

項目	詳細	評価
感情の制御	感情の制御	A
立ち回りの早さ	立ち回りの早さ	B
状況に応じた冷静さ	状況に応じた冷静さ	C
自ら先制に立ちあがる	自ら先制に立ちあがる	D
未知の物に挑戦する	未知の物に挑戦する	D
粘り強くやり続ける	粘り強くやり続ける	D
相手の立場に立ちあがる	相手の立場に立ちあがる	D
物事と関わり合う姿勢	物事と関わり合う姿勢	D

経験

問題解決に必要な思考力や姿勢・態度を身につけるために必要な経験について、あなたの到達度を7つの項目別に示しています。これまでどんな経験を積んできたか、今後どんな経験を積んでいくべきかを考えましょう。

到達度	D (0-20%未満)	C (20-40%未満)	B (40-60%未満)	A (60-80%未満)	S (80-100%)
自己管理能力					
対人関係					
計画・実行					
問題解決					
創造性					
リーダーシップ					
協働性					
粘り強さ					
冷静さ					

過去の経験の振り返りが可能

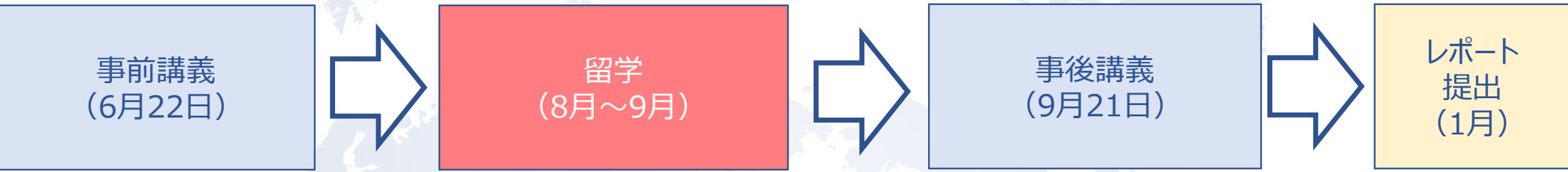
具体的なアドバイスあり

姿勢・態度のバランスの確認が可能

具体的なアドバイスあり

分析結果について

(1) 全体傾向



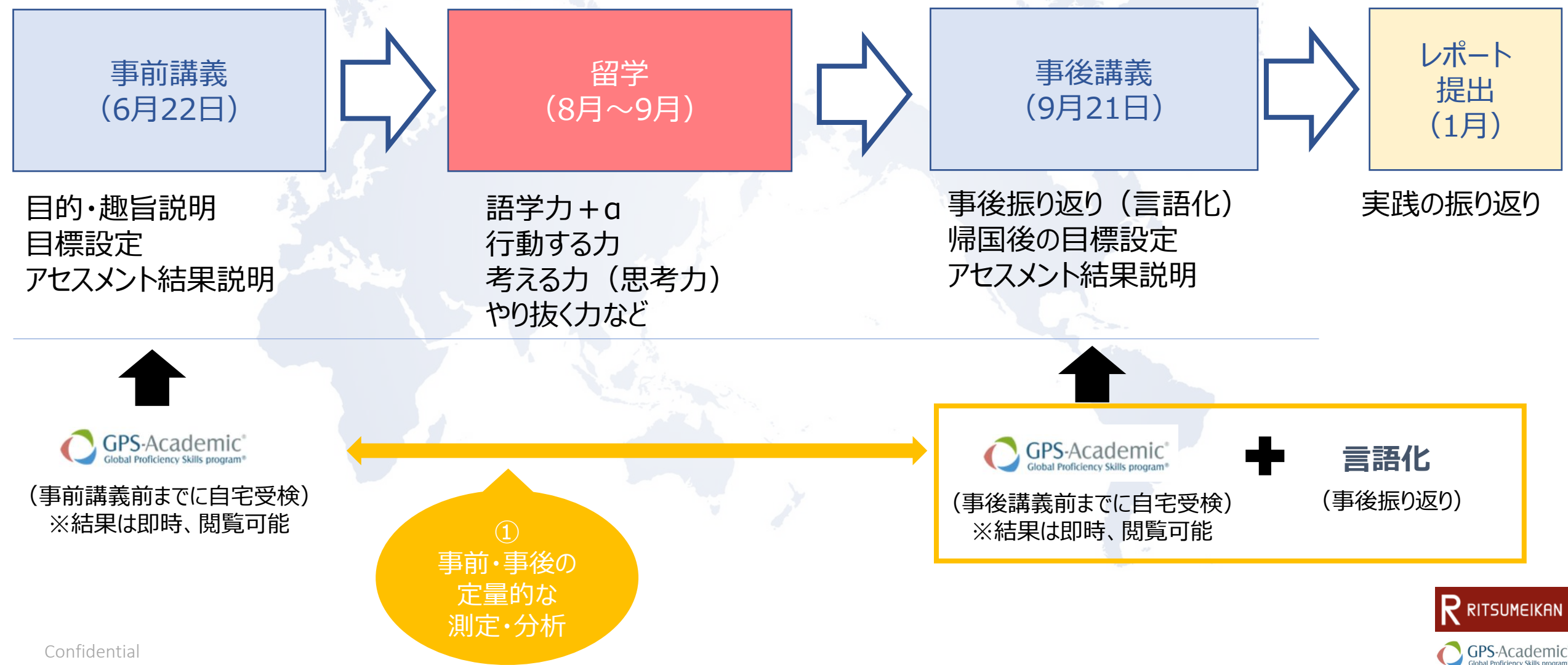
目的・趣旨説明
目標設定
アセスメント結果説明

語学力 + α
行動する力
考える力 (思考力)
やり抜く力など

事後振り返り (言語化)
帰国後の目標設定
アセスメント結果説明

実践の振り返り





学年	人数
1年	72人
2年	50人
3年	26人
4年	7人
合計	155人

学部	人数
産業社会学部	16人
国際関係学部	7人
文学部	12人
経済学部	15人
スポーツ健康科学部	4人
食マネジメント学部	13人
理工学部	13人
情報理工学部	5人
生命科学部	25人
経営学部	14人
政策科学部	25人
総合心理学部	6人
合計	155人

	GPSスコア（参加者平均）		
	Before	After	Af – Bf
思考力総合	46.8	48.2	1.40
批判的思考力	45.3	46.6	1.22
協働的思考力	46.0	48.4	2.39
創造的思考力	47.9	49.1	1.14
姿勢態度総合	50.0	50.5	0.50
レジリエンス	50.2	51.4	1.23
リーダーシップ	50.1	50.3	0.23
コラボレーション	49.9	49.9	0.03
経験総合	57.2	61.9	4.70
自己管理	56.8	60.7	3.84
対人関係	59.2	64.5	5.37
計画実行	55.7	60.5	4.71

分析結果について

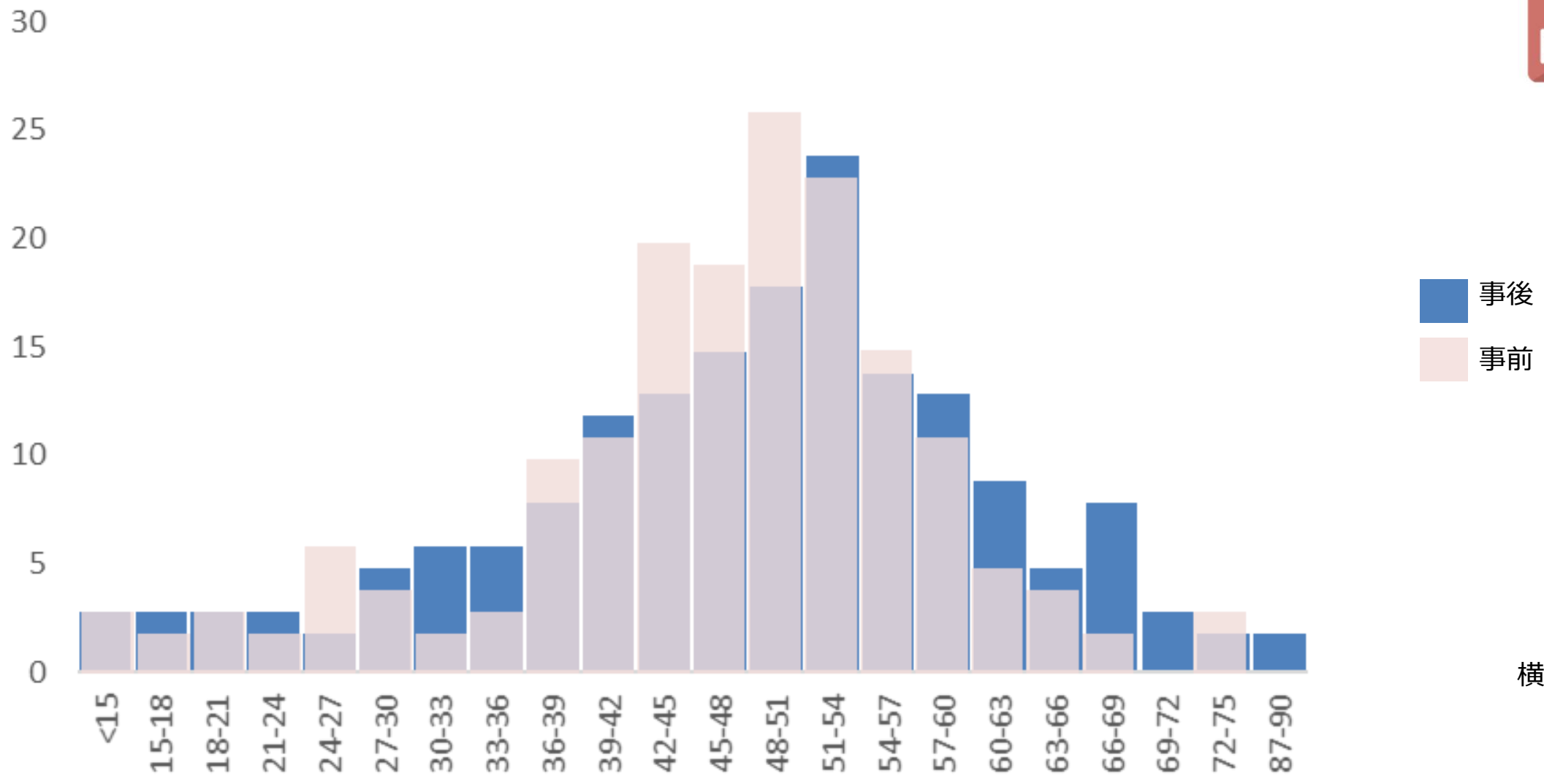
(1) 全体傾向 – 1.思考力

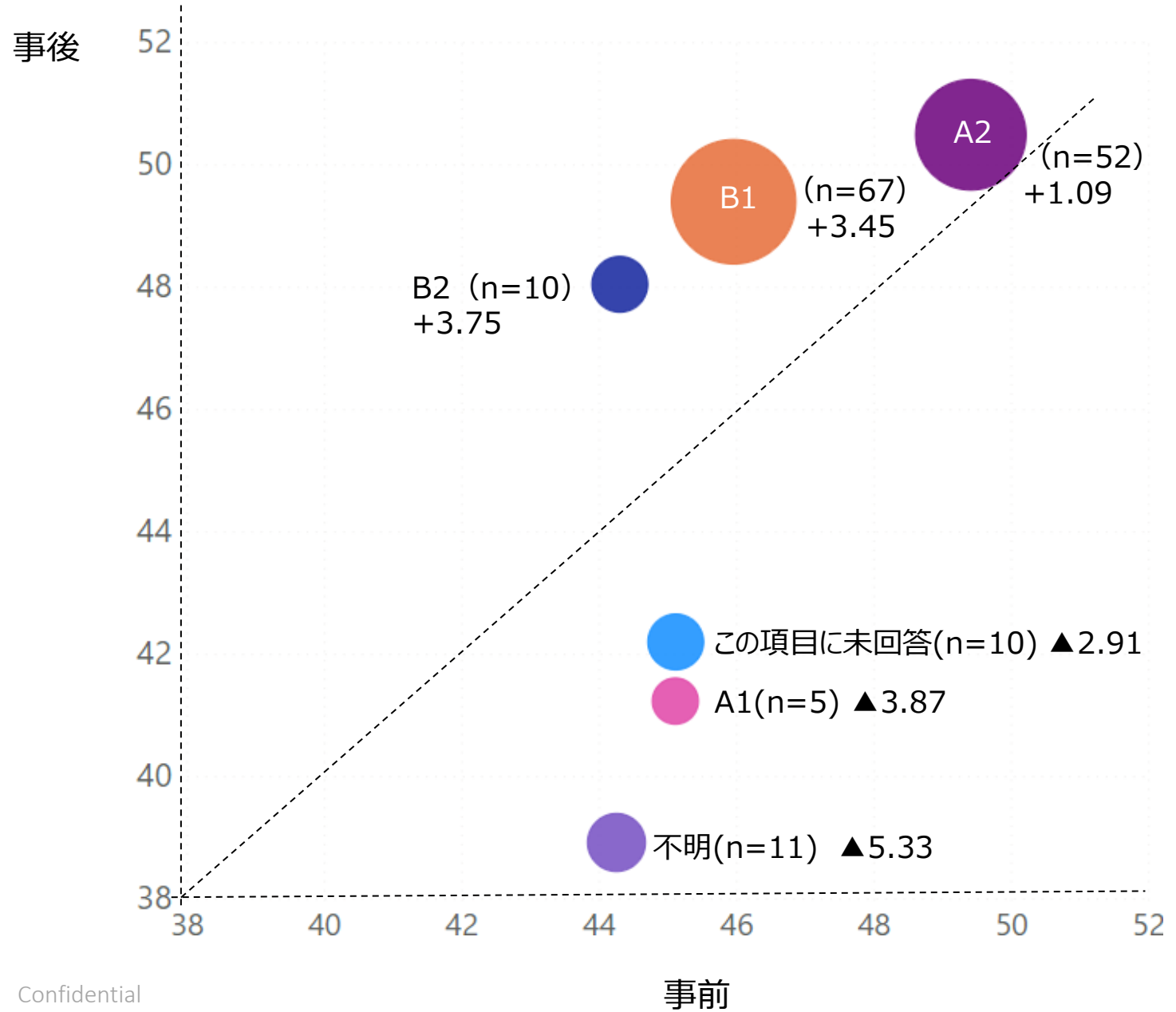
問題解決の質と深さを左右する
思考力

批判的
思考力

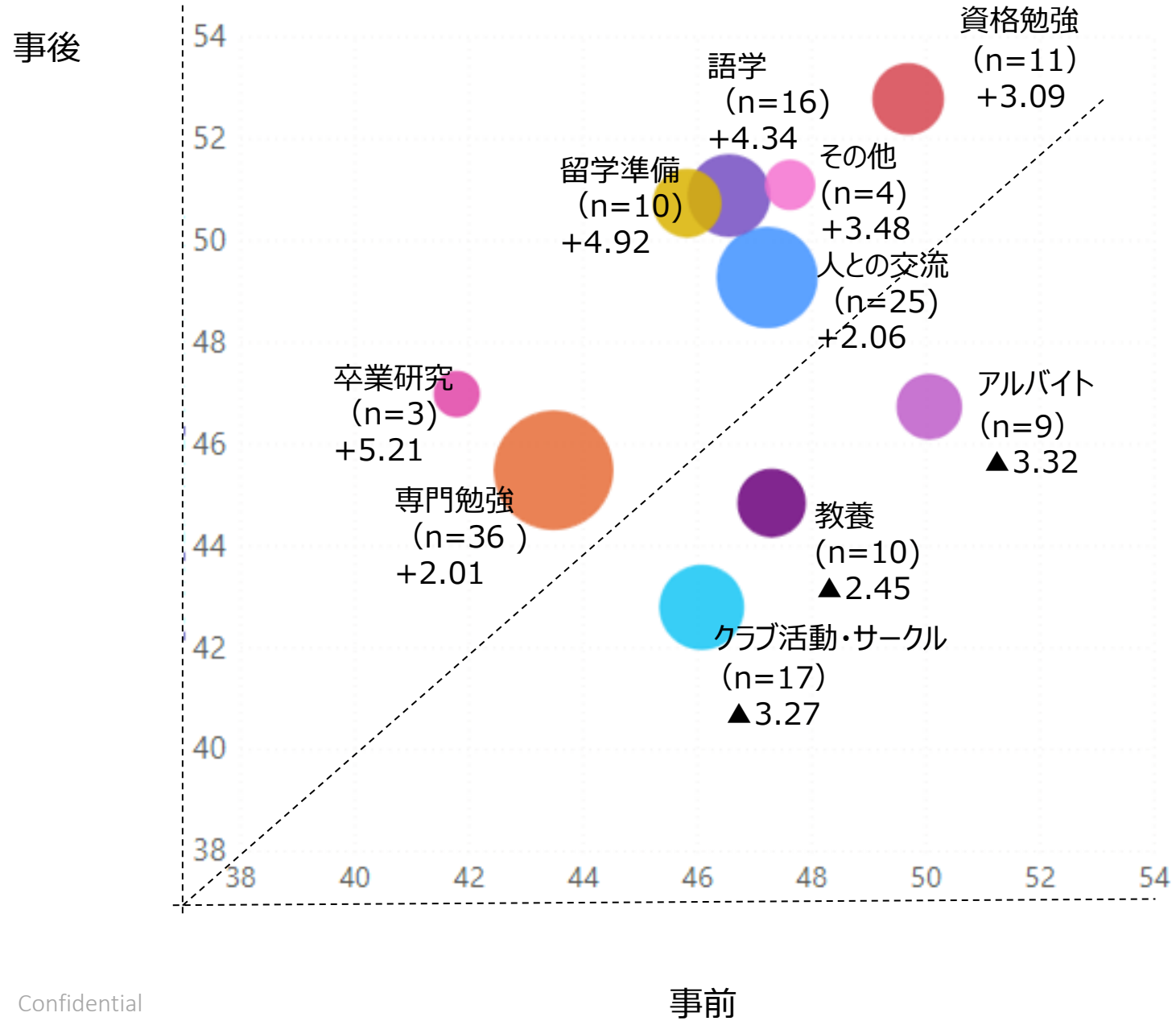
協働的
思考力

創造的
思考力



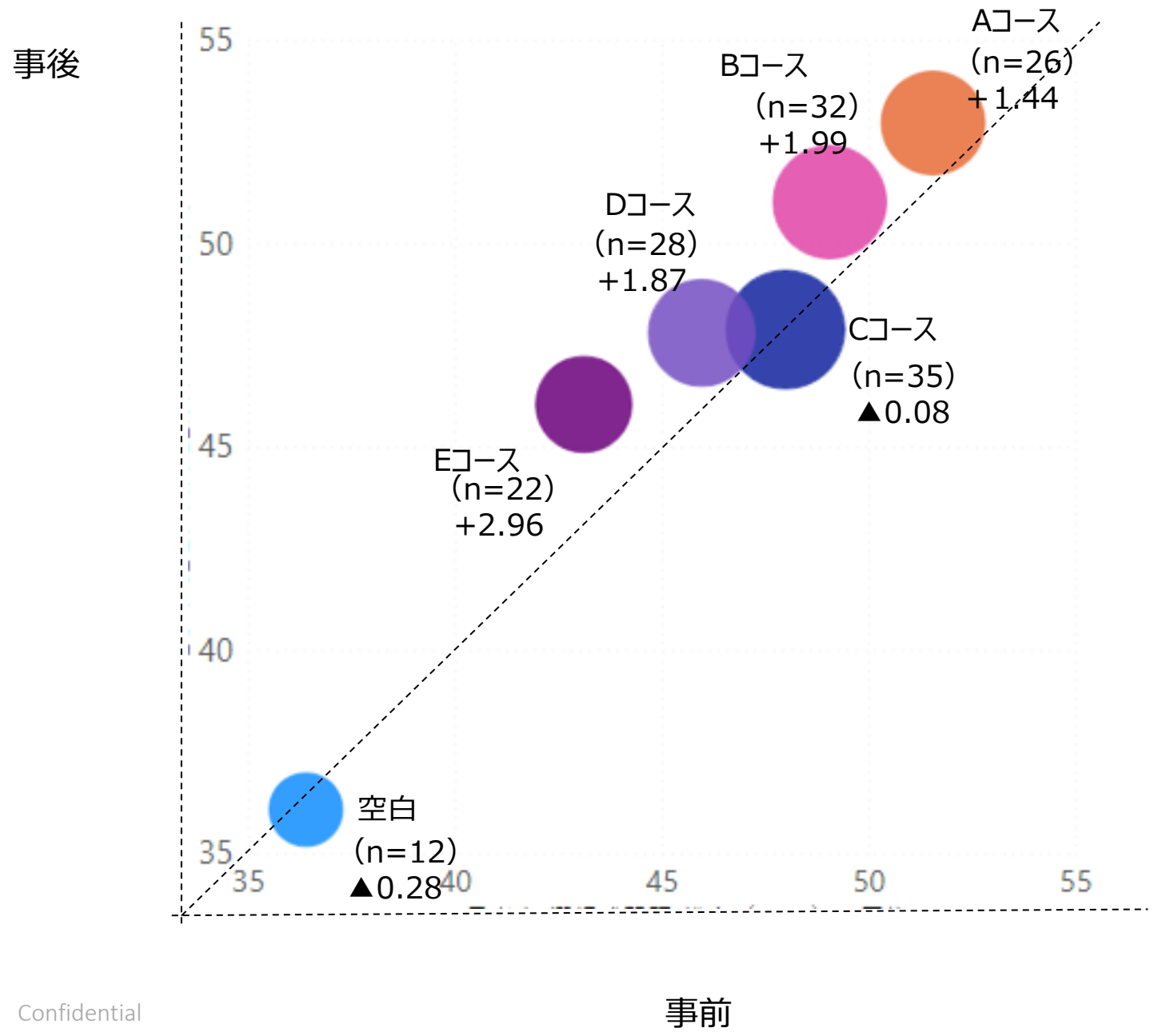


縦：思考力スコア
 横：思考力スコア
**CEFRは学生の
 自己申告**
 (n=155)



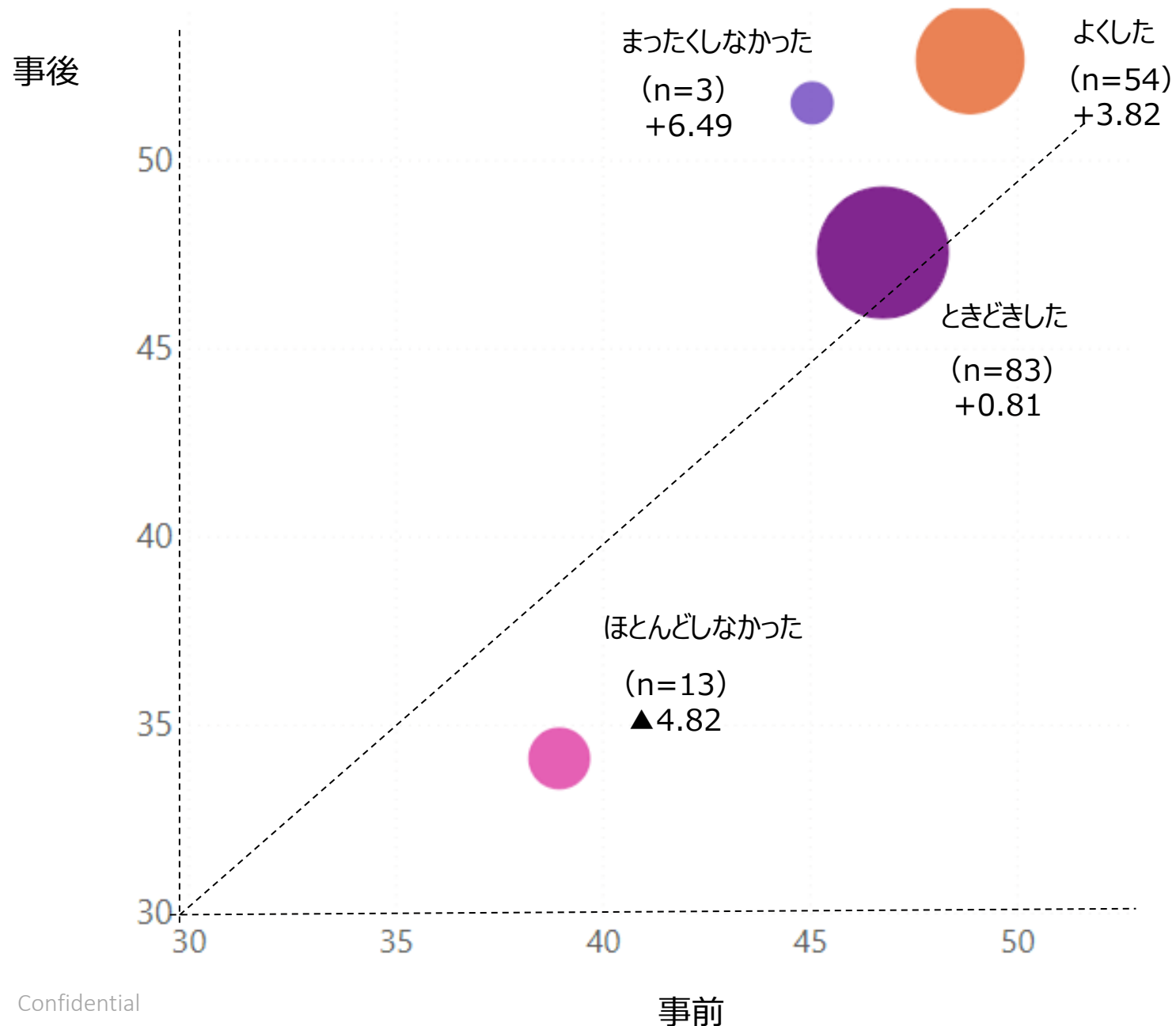
縦：思考力スコア
横：思考力スコア

(n=155)



縦：思考力スコア
 横：思考力スコア

(n=155)



縦：思考力スコア
横：思考力スコア

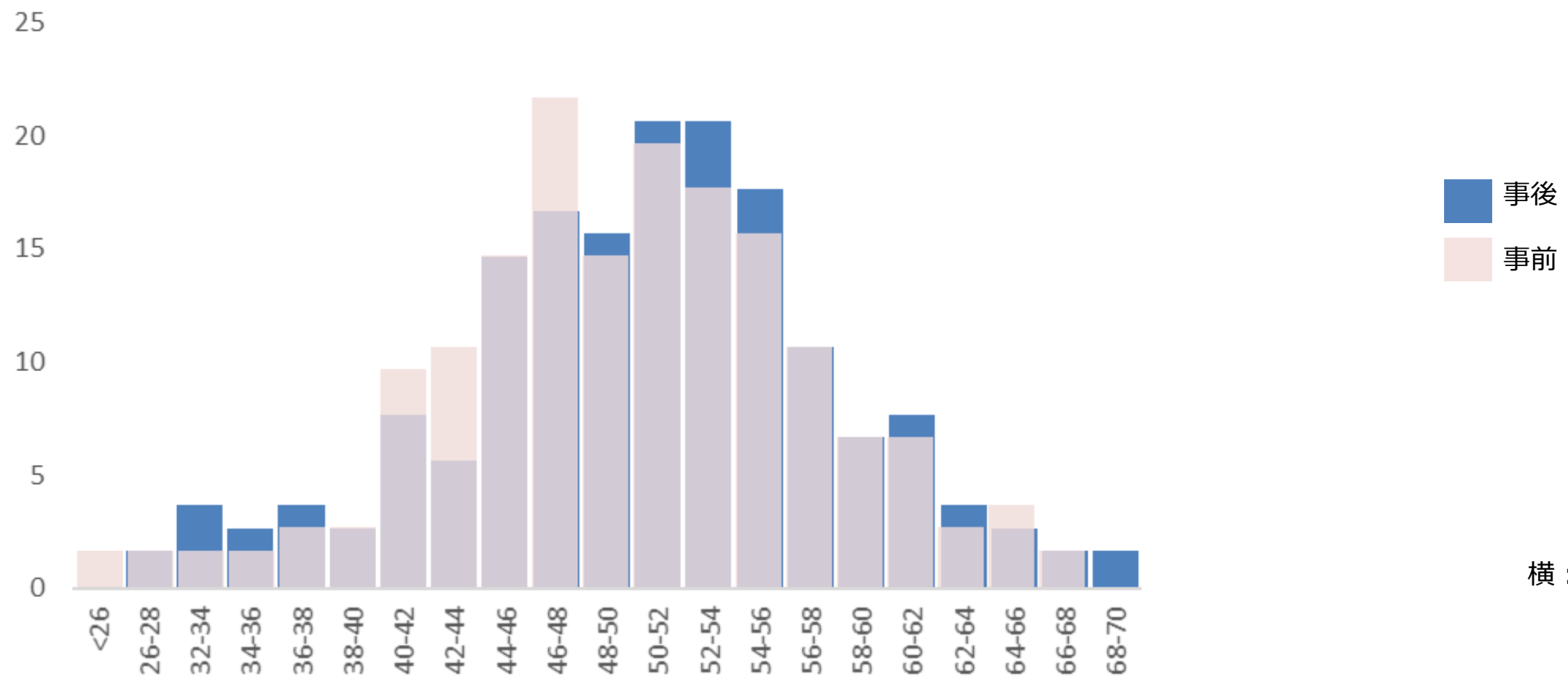
(n=155)

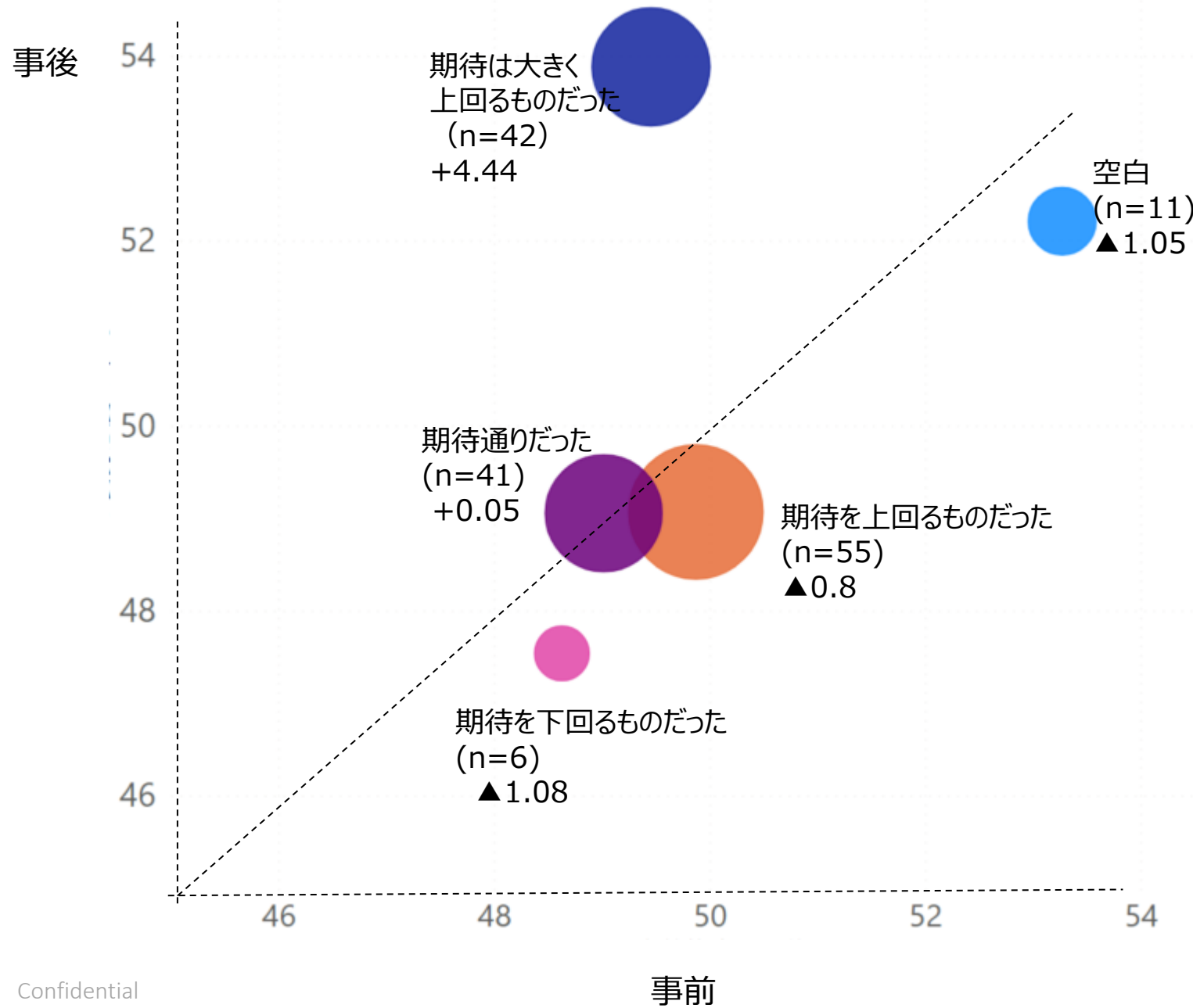
分析結果について

(1) 全体傾向 – 2.姿勢態度

問題解決に向かう
姿勢・態度

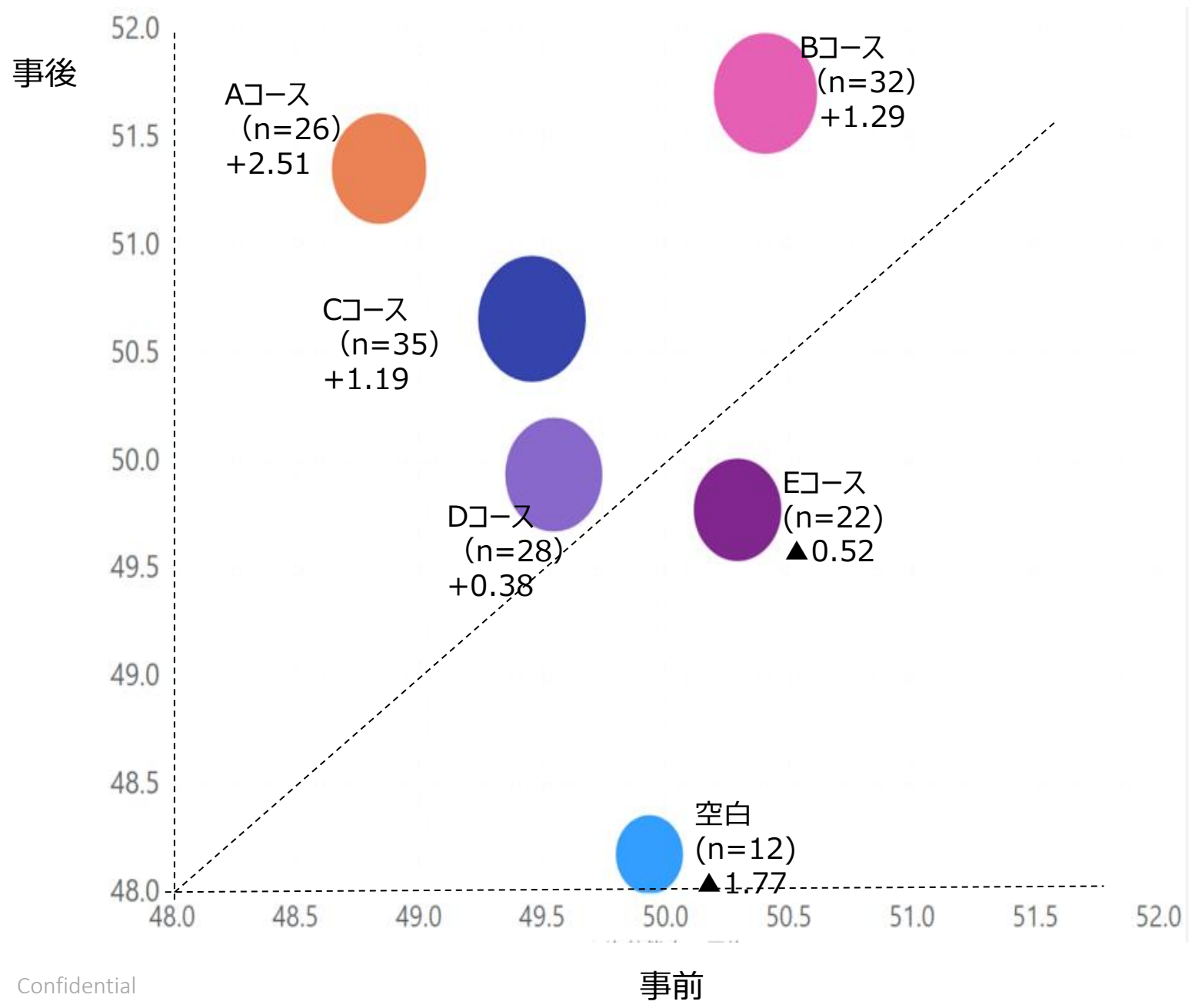
レジリエンス リーダーシップ コラボレーション





縦： 姿勢態度スコア
 横： 姿勢態度スコア

(n=155)

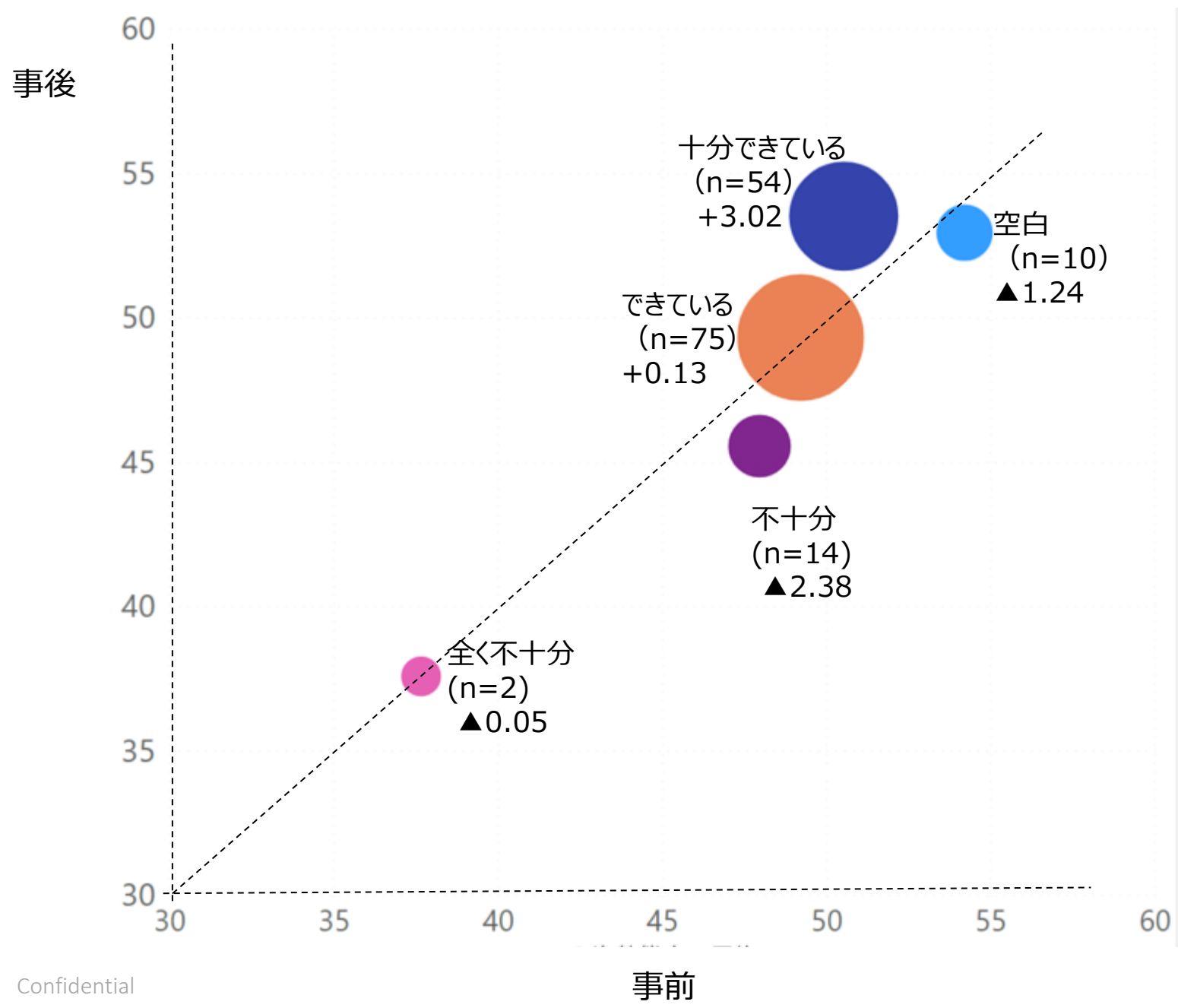


縦： 姿勢態度スコア
 横： 姿勢態度スコア

(n=155)



GPS姿勢態度スコア × 留学で得たこと、成長できたことを振り返る状態を作れているか

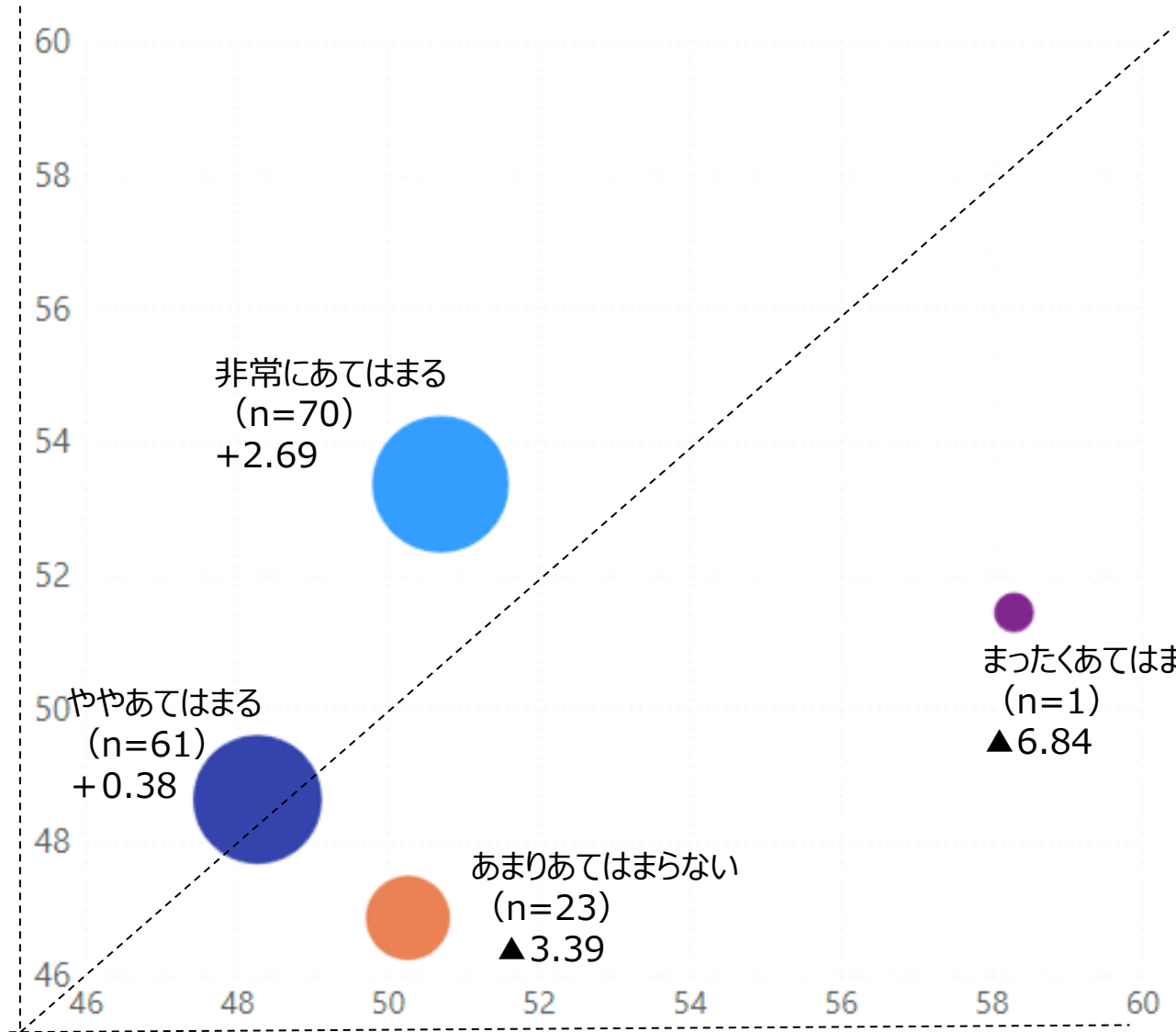


縦：姿勢態度スコア
 横：姿勢態度スコア

(n=155)



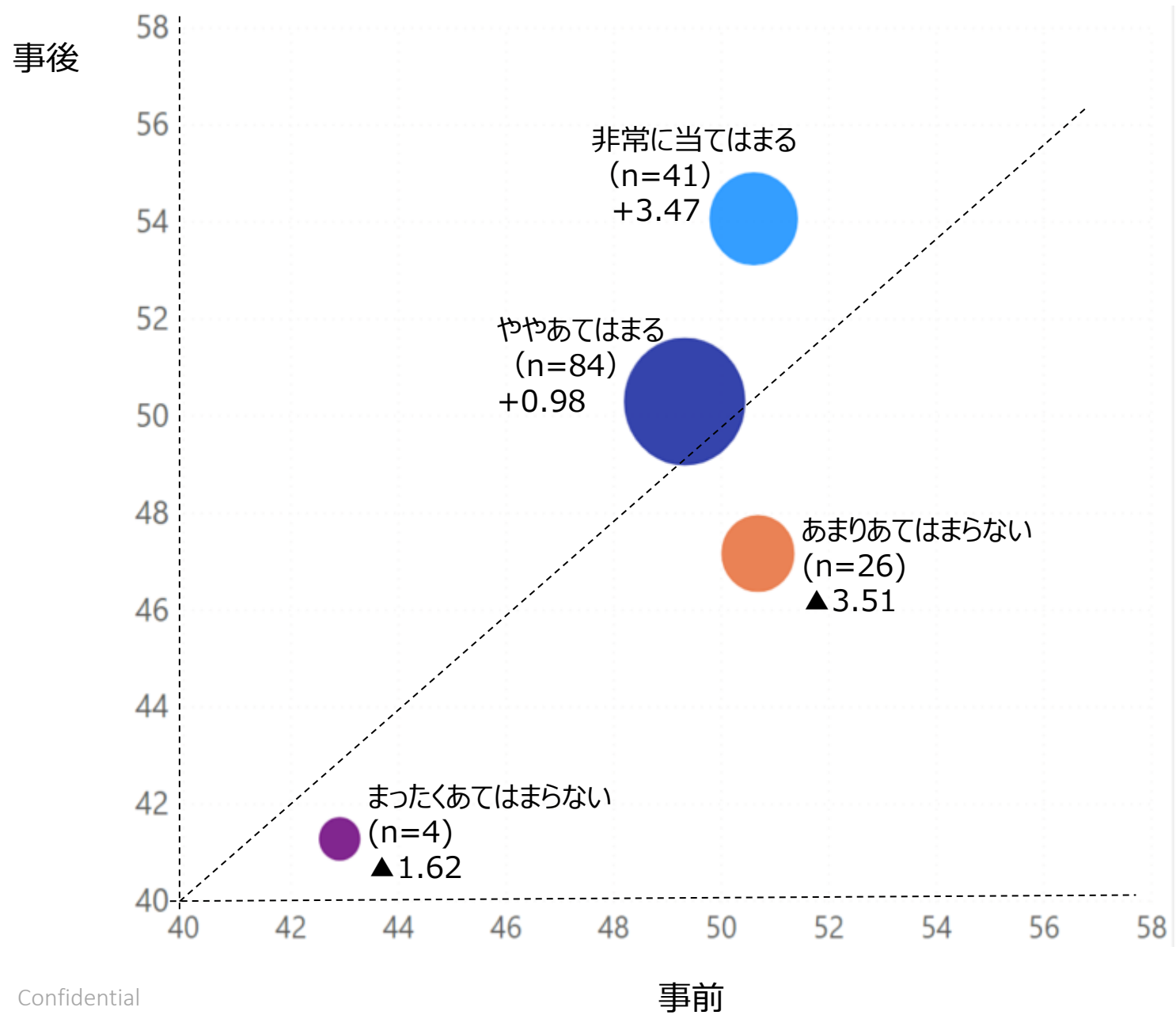
事後



縦： 姿勢態度スコア
横： 姿勢態度スコア

(n=155)

事前



縦： 姿勢態度スコア
横： 姿勢態度スコア

(n=155)

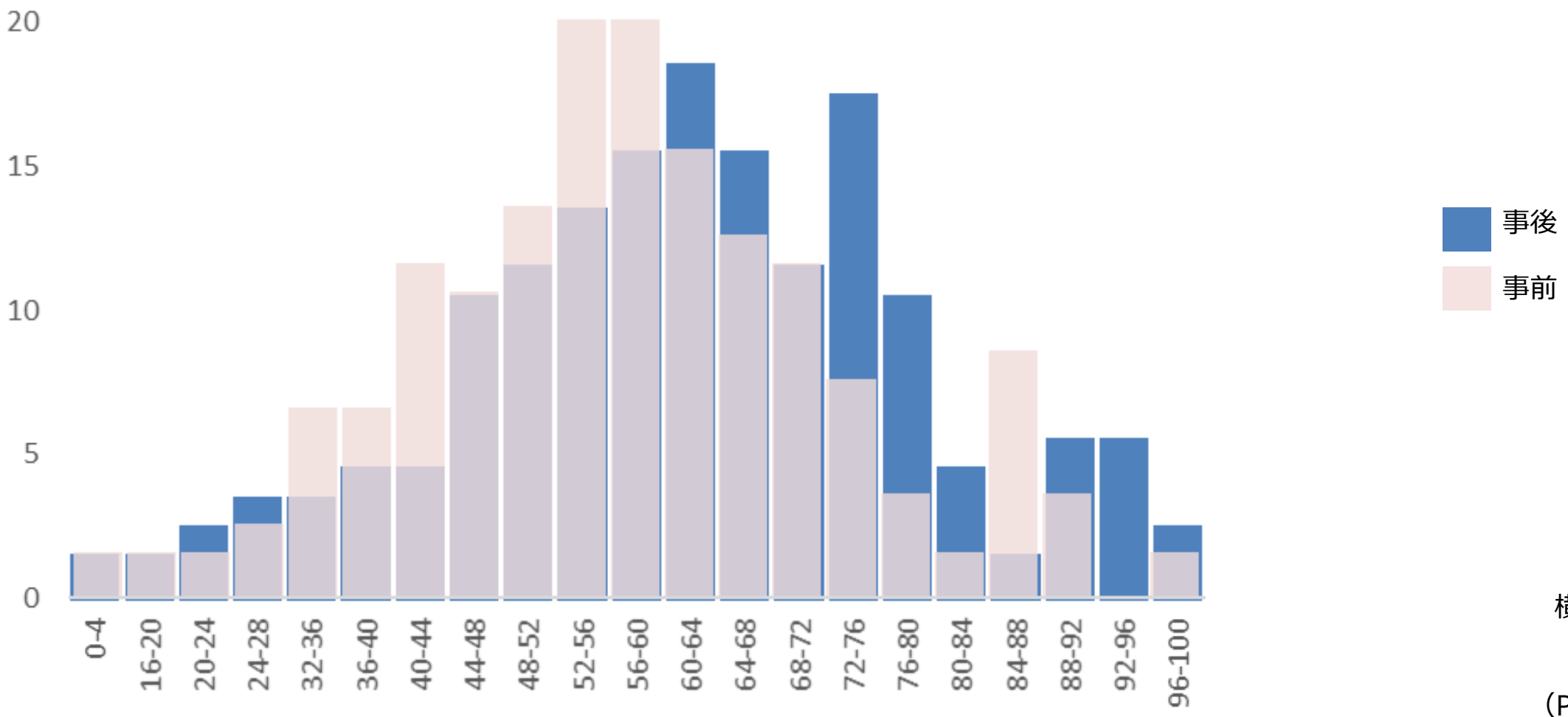


分析結果について

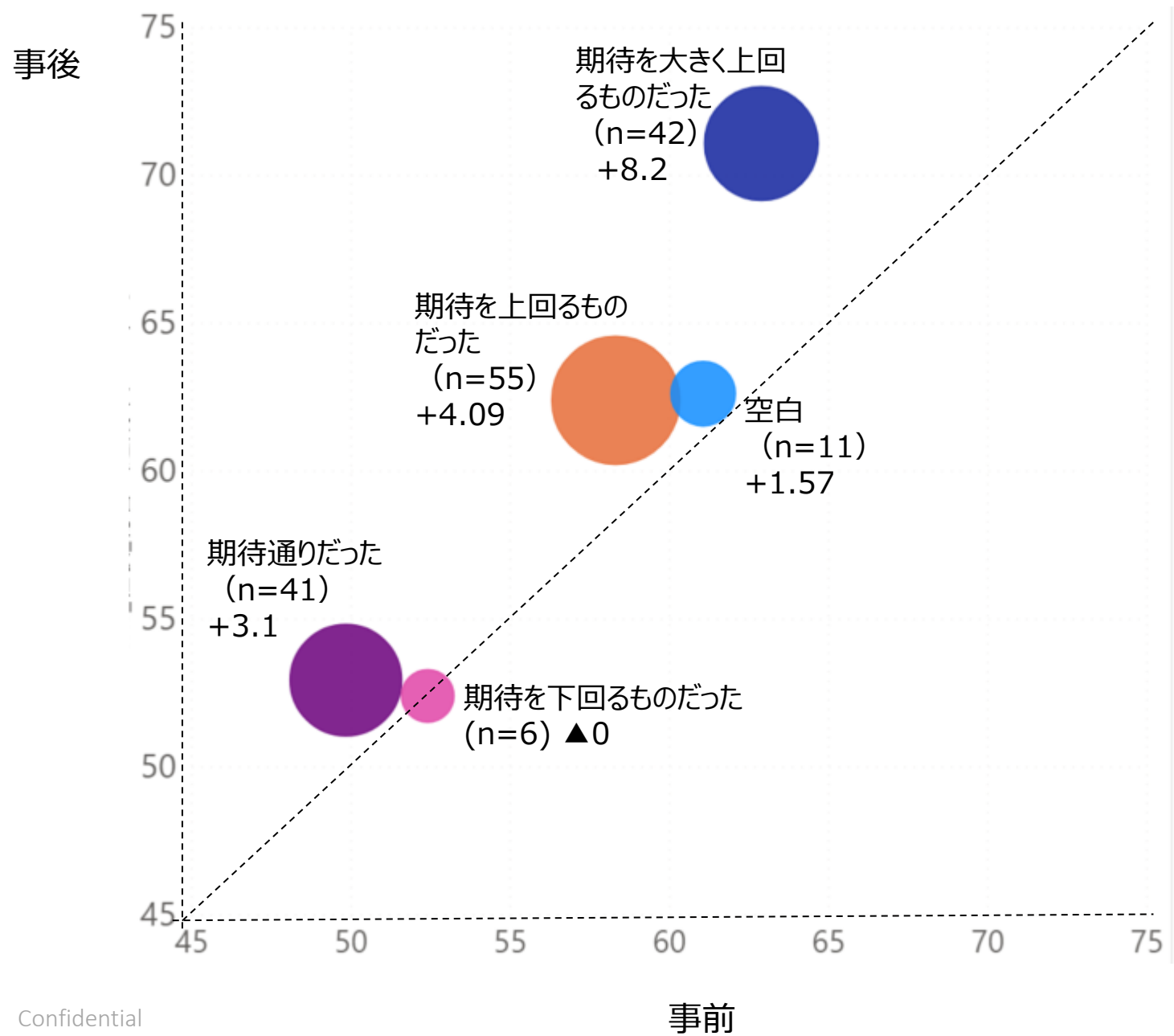
(1) 全体傾向 – 3.経験(自己評価)

問題解決の力を磨くための
経験

自己管理 対人関係 計画・実行

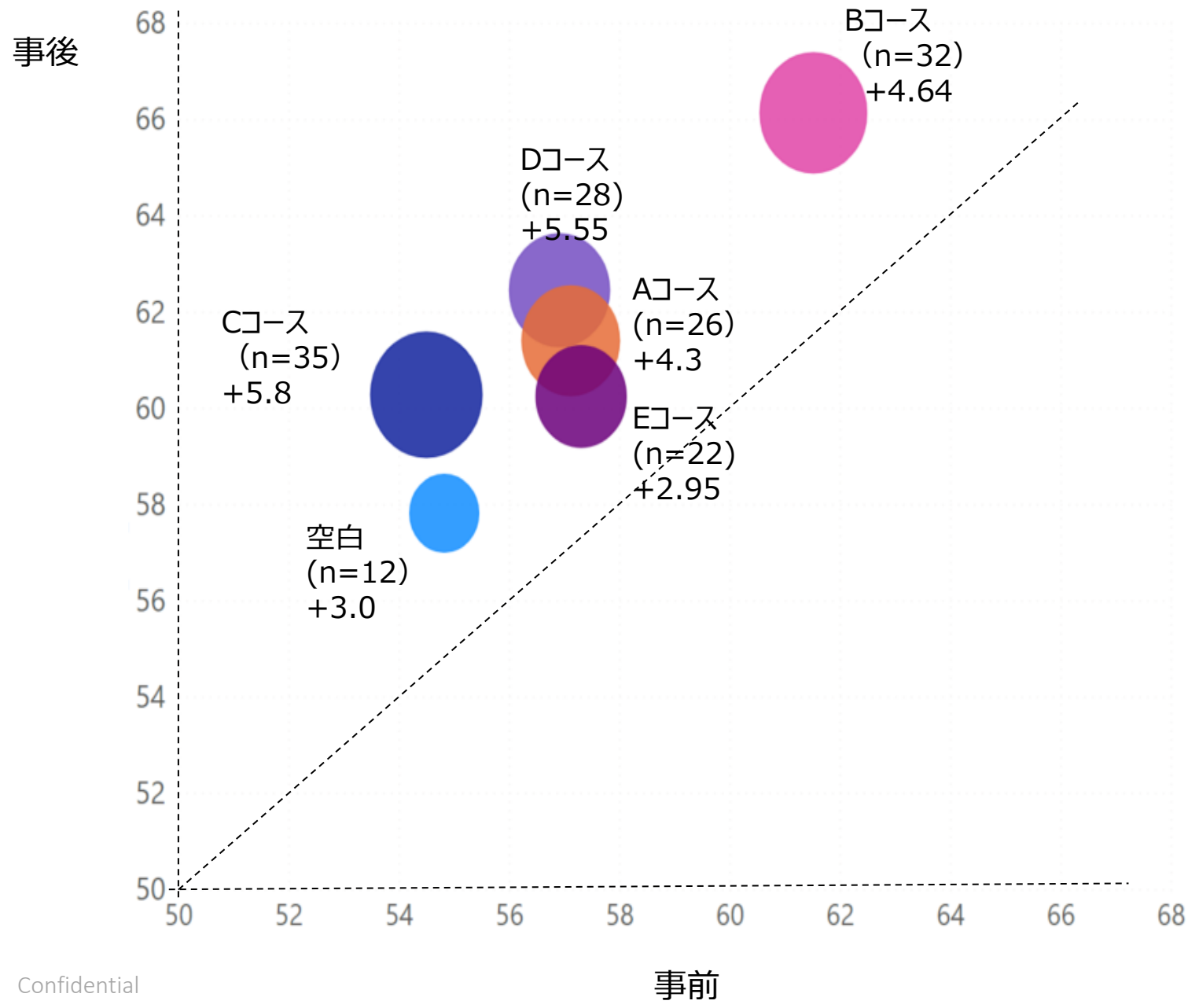


縦：人数
横：経験スコア
(n=155)
(P=0.000004)



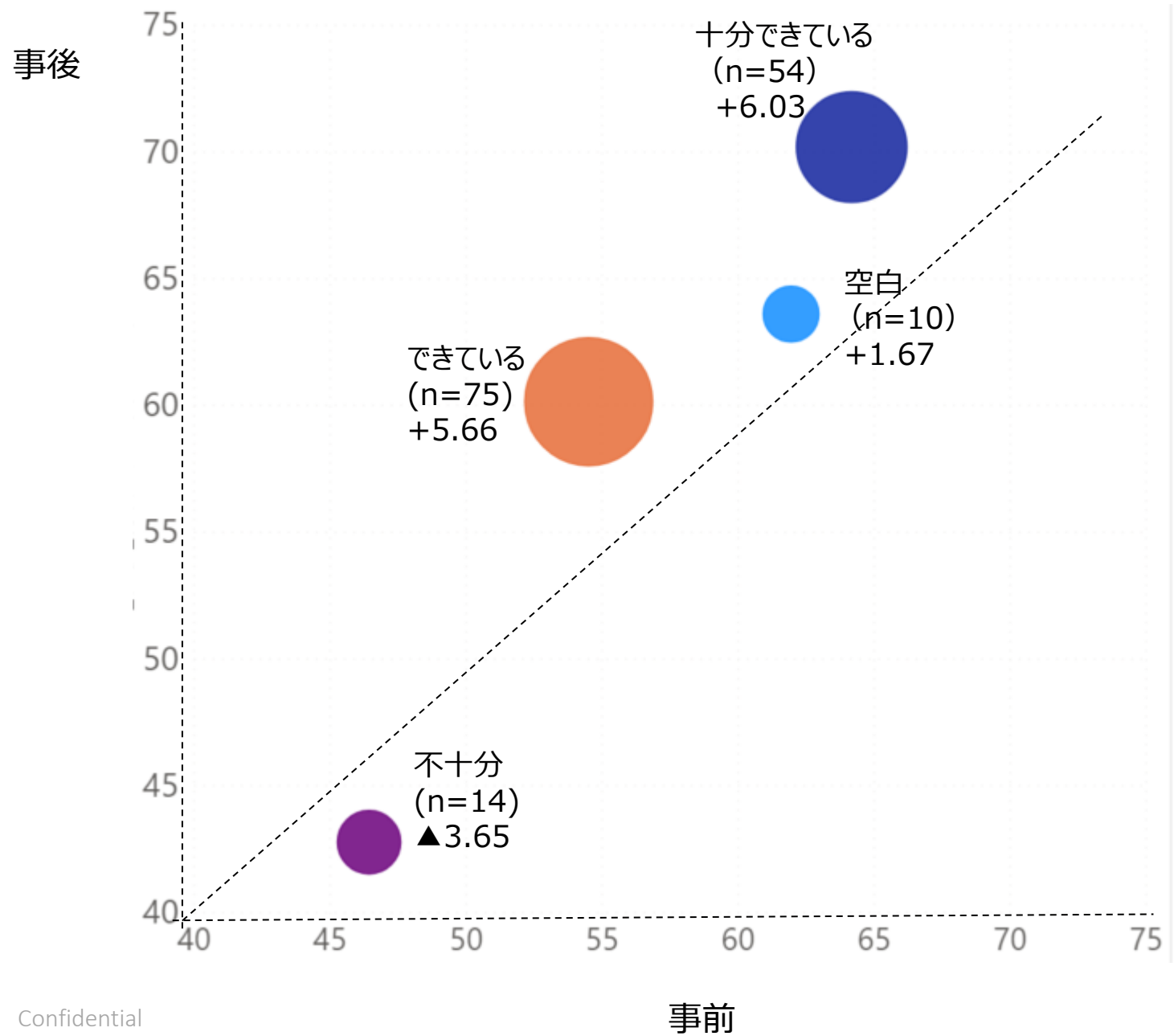
縦： 経験スコア
横： 経験スコア

(n=155)



縦： 経験スコア
 横： 経験スコア

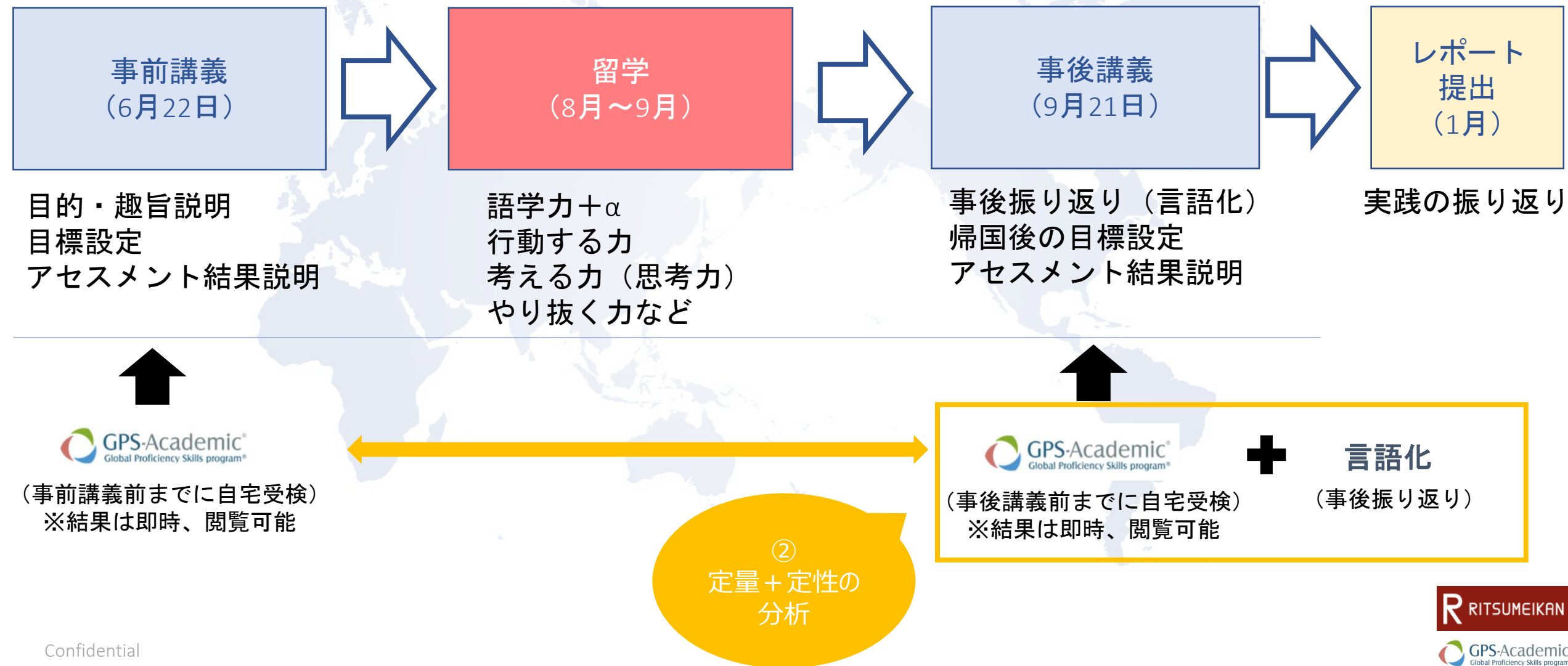
(n=155)



縦：経験スコア
横：経験スコア

(n=155)

分析結果について
(2) 定量+定性 分析





登録・入力

doda キャンパス

逆求人型ポートフォリオサービス



オファー



企業

学生生活の4年間をポートフォリオ上に入力

- 自己PR
- 経験（留学経験・授業・アルバイト等）
- 留学経験の有無
- 語学力
- 資格
- GPS-A結果（思考力・姿勢態度）
- 希望業界・職種・勤務地など

企業の人材要件に合致する人材にオファー

- 自己PR・経験
- 学部・学科
- 留学経験
- 語学力
- 思考力
- 姿勢態度（リーダーシップ等）
- 資格
- 希望業界・職種・勤務地等

留学成果をキャリア・就職活動いかしきれていない 「言語化」「相対化」「言語+a」に課題がある

Q. 留学経験がある学生への質問

「就職活動を控え、不安に感じる事があれば記載してください。」

以下フリーコメントを記載

- ・留学についてどのくらいアピールするべきかわからない。
- ・留学で学んだことを上手く伝えられるかどうか。
- ・留学経験をどう就活にいかせるか。
- ・今の時代、留学なんてみんなしてるからなんの主張にもならない。
- ・正直、自分の留学経験がなんで就職活動につながるのか分からない。
- ・留学経験者が多い中、どう他者と差別化をはかるか。
- ・本当に多くの経験をしたのに上手く留学経験をPRできない。
- ・最近海外留学した就活生が多く、差別化できるのかが不安。

* 留学成果を活かしたワークショップ参加学生10校200名へのアンケート結果の抜粋

レベル1：語学力向上のみ言及（留学成果＝語学力）

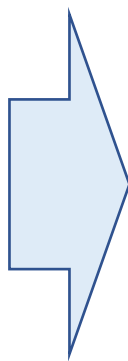
レベル2：異文化コミュニケーション（BBQの写真アップが多い）

レベル3：留学先での主体的な活動（日本フェスティバル開催等）

レベル4：留学で得た経験を転用している（留学帰国後の活動）

アンケート例

- ・ 出発前に設定した目標は達成できましたか？
- ・ 自身で検証（分析）した、達成できた（できなかった）要因は何ですか？
- ・ GFP現地研修を終えた今、次は何を目指そうと思いますか？
- ・ 1年後の目標達成に向け、自ら設定した行動目標は何ですか？
- ・ フィールドワークを通じて一番印象に残っていること（気づき、発見、得たこと、学んだこと）は何ですか？
- ・ これまでのGFP研修を通じて「自身が成長できた」と感じている点を簡潔にご記入ください。
- ・ 今回のGFP研修を通じ、今後グローバル化する社会で自身が活躍するために必要なチカラは何だと思いますか。



155名×10設問の
テキストデータ分析

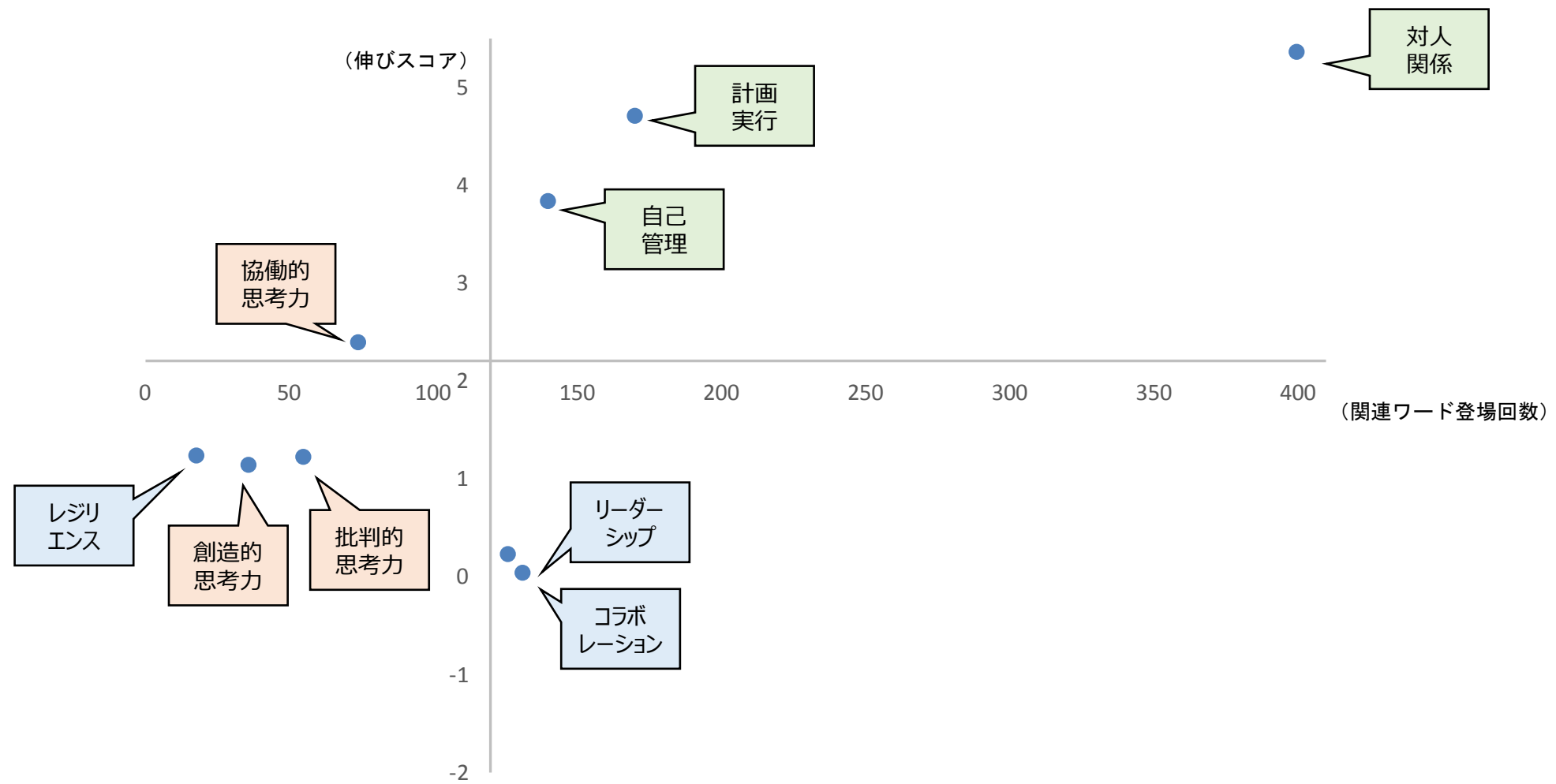
● 意味解析分析

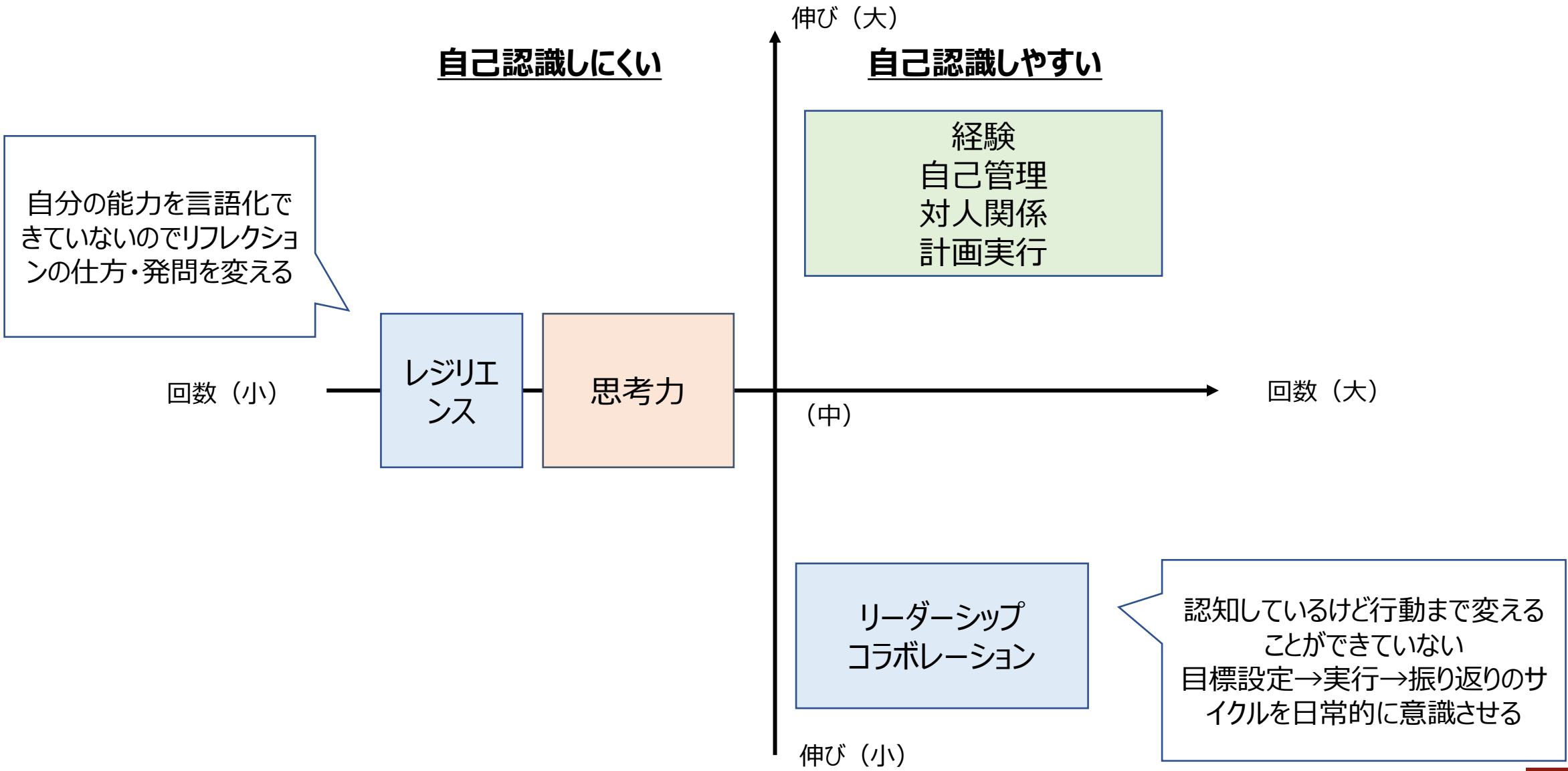
GPS-Academic測定領域

批判的思考力	例) 根拠を示す
協働的思考力	例) 他者との共通点を理解する
創造的思考力	例) 課題から解決策を考える
レジリエンス	例) 冷静に対応する
リーダーシップ	例) 自ら企画を提示する
コラボレーション	例) 相手の立場に立って考える
自己管理	例) 積極的にチャレンジした
対人関係	例) グループ内で議論した
計画実行	例) 計画的に準備した

	GPSスコア（参加者平均）			意味解析分析 関連ワード 登場回数
	Before	After	Af - Bf	
思考力総合	46.8	48.2	1.40	—
批判的思考力	45.3	46.6	1.22	55
協働的思考力	46.0	48.4	2.39	74
創造的思考力	47.9	49.1	1.14	36
姿勢態度総合	50.0	50.5	0.50	—
レジリエンス	50.2	51.4	1.23	18
リーダーシップ	50.1	50.3	0.23	126
コラボレーション	49.9	49.9	0.03	131
経験総合	57.2	61.9	4.70	—
自己管理	56.8	60.7	3.84	140
対人関係	59.2	64.5	5.37	400
計画実行	55.7	60.5	4.71	170
英語	—	—	—	272

GPSスコアの伸びと意味解析分析の各項目の関連ワード登場回数





■ 思考力

- 英語力が高いほど思考力スコアの伸びが大きい
 - 留学準備・語学・日々の学び（卒業研究・資格）に力を入れていた学生の思考力スコアの伸びが大きい
 - グループワークやディスカッションに積極的に参加する学生の思考力スコアが高い
- ＝「留学前のレディネス」→「最低限の英語力」+「フィールドワークでの積極性」**

■ 姿勢態度・経験

- 留学の成果を強く感じている学生ほど、姿勢態度・経験スコアの伸びが大きい
 - 留学の振り返りができている学生ほど、姿勢態度・経験スコアの伸びが大きい
 - 学びへの主体性・意欲を有している学生ほど、姿勢態度スコアの伸びが大きい
- ＝「留学後のリフレクション」→「自己肯定感」+「主体的な意欲・マインド」**

■ GPS×定性データ

- 経験 関連ワード登場回数（大）×スコア伸び（大）
 - リーダーシップ・コラボレーション 関連ワード登場回数（中）×スコア伸び（小）
 - 思考力・レジリエンス 関連ワード登場回数（小）×スコア伸び（中）
- 留学効果を最大化するために「能力伸長×学生の気づき」に応じたリフレクションの仕方や施策が重要**

1. より学生にとって意義のある留学プログラムのための不断的な努力
(競争力のある留学プログラムへの改善[気づきの獲得]、
大学IR/プログラム評価の視点)
2. キャリアとの接続
(企業との協働、社会に期待される力との接点)
3. 学生にとって少しでも真に「役立つ」留学プログラムへ